

**ASUS**<sup>®</sup>

**Motherboard**

***P4P800-X***

ユーザーガイド

J1718

第一版

2004年9月

**Copyright© 2004 ASUSTeK COMPUTER INC. All Rights Reserved.**

購入者がバックアップの目的で利用する場合を除き、本書中に示されるハードウェア・ソフトウェアを含む、本マニュアルのいかなる部分も、ASUSTeK COMPUTER INC. (ASUS)の文書による明示的な許諾なく、再構成したり、転載・引用・放送・複写、検索システムへの登録、他言語への翻訳などを行うことはできません。

以下の場合、製品の保証やサービスを受けることができません：(1)ASUSが明記していない方法で、修理、改造、交換した場合。(2)製品のシリアル番号が傷つけられていたり、失われていた場合。

ASUSは、明示および暗示を問わず、いかなる保証もなく現状のものとして本書を提供します。ただし、市場の状況や特定の目的のための変更を除きます。ASUSの責任者、従業員、代理人は、本書の記述や本製品から生じるいかなる間接的、直接的、偶発的、二次的な損害（利益の損失、ビジネスチャンスの遺失、データの損失、業務の中断などを含む）に対して、その可能性を事前に指摘したかどうかに関りなく、責任を負うことはありません。

本書の仕様や情報は、個人の使用目的のためにのみ供給されます。予告なしに内容が変更されることがあります。しかし、この変更はASUSの義務ではありません。本書およびハードウェア、ソフトウェアの間違い・不正確さについて、ASUSは対応義務も責任もありません。

本書中の製品名や企業名は登録商標や著作物の場合があります。本書では、識別、説明、およびユーザーの便宜をはかる目的にのみ使用しており、権利を侵害する目的はありません。

# もくじ

ご注意 .....	vi
安全上の注意 .....	vii
本ガイドについて .....	viii
本ガイドの表記について .....	viii
詳細情報 .....	viii
P4P800-X 仕様のまとめ .....	ix
<b>第 1 章: はじめに</b>	
1.1 ようこそ! .....	1-2
1.2 梱包の内容 .....	1-2
1.3 特殊機能 .....	1-2
1.4 組み立ての前に .....	1-4
1.5 マザーボードの概要 .....	1-5
1.5.1 マザーボードのレイアウト .....	1-6
1.5.2 配置方向 .....	1-6
1.5.3 ネジ穴 .....	1-6
1.6 中央処理装置(CPU) .....	1-7
1.6.1 概要 .....	1-7
1.6.2 CPUを取り付ける .....	1-8
1.7 システムメモリ .....	1-9
1.7.1 概要 .....	1-9
1.7.2 メモリ構成 .....	1-9
1.7.3 DIMMの取り付け .....	1-12
1.8 拡張スロット .....	1-13
1.8.1 割り込みの割り当て .....	1-13
1.8.2 このマザーボード用のIRQ割当 .....	1-13
1.8.3 PCI スロット .....	1-14
1.8.4 AGP スロット .....	1-14
1.9 ジャンパ .....	1-15
1.10 コネクタ .....	1-17
1.10.1 背面パネルコネクタ .....	1-17
1.10.2 内部コネクタ .....	1-17
<b>第 2 章: BIOSセットアップ</b>	
2.1 BIOSの管理更新 .....	2-2
2.1.1 起動可能なフロッピーディスクを作成する .....	2-2

# もくじ

2.1.2	AFUDOSを使用してBIOSを更新する .....	2-3
2.1.3	AFUDOSを使用してPCからBIOSをコピーする ....	2-4
2.1.4	ASUS EZフラッシュを使用して、 BIOSを更新する .....	2-5
2.1.5	CrashFree BIOS 2でBIOSを回復する .....	2-6
2.2	BIOS の設定プログラム .....	2-8
2.2.1	BIOSメニュースクリーン .....	2-9
2.2.2	メニューバー .....	2-9
2.2.3	ナビゲーションキー .....	2-9
2.2.4	メニューアイテム .....	2-10
2.2.5	サブメニューアイテム .....	2-10
2.2.6	構成フィールド .....	2-10
2.2.7	ポップアップウィンドウ .....	2-10
2.2.8	スクロールバー .....	2-10
2.2.9	全般ヘルプ .....	2-10
2.3	メインメニュー .....	2-11
2.3.1	System Time .....	2-11
2.3.2	System Date .....	2-11
2.3.3	Legacy Diskette A .....	2-11
2.3.4	1次および2次IDE マスタ/スレーブ .....	2-12
2.3.5	IDE Configuration .....	2-12
2.3.6	システム情報 .....	2-12
2.4	詳細メニュー .....	2-15
2.4.1	JumperFree 構成 .....	2-15
2.4.2	CPU 構成 .....	2-17
2.4.3	チップセット .....	2-18
2.4.4	オンボードデバイス構成 .....	2-20
2.4.5	PCI PnP .....	2-21
2.4.6	USB 構成 .....	2-22
2.5	電源メニュー .....	2-24
2.5.1	Suspend Mode .....	2-24
2.5.2	Repost Video on S3 Resume .....	2-24
2.5.3	ACPI 2.0 Support .....	2-24
2.5.4	ACPI APIC Support .....	2-24
2.5.5	BIOS -> AML ACPI Table .....	2-24
2.5.6	APM 構成 .....	2-25
2.5.7	ハードウェアモニタ .....	2-27
2.6	起動メニュー .....	2-28

# もくじ

2.6.1 起動デバイスの優先順位 .....	2-28
2.6.2 起動設定構成 .....	2-28
2.6.3 セキュリティ .....	2-30
2.7 終了メニュー .....	2-32

## 第 3 章: ソフトウェアのサポート

3.1 オペレーティングシステムをインストールする .....	3-2
3.2 サポートCD情報 .....	3-2
3.2.1 サポートCDを実行する .....	3-2
3.2.2 ドライバメニュー .....	3-3
3.2.3 ユーティリティメニュー .....	3-3

# ご注意

## Federal Communications Commission Statement

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received including interference that may cause undesired operation.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with manufacturer's instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment to an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.



---

The use of shielded cables for connection of the monitor to the graphics card is required to assure compliance with FCC regulations. Changes or modifications to this unit not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate this equipment.

---

## Canadian Department of Communications Statement

This digital apparatus does not exceed the Class B limits for radio noise emissions from digital apparatus set out in the Radio Interference Regulations of the Canadian Department of Communications.

**This class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.**

# 安全上の注意

## 電気的安全性について

- ・ 本製品について作業を行う場合は、感電防止のため、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 本製品に周辺機器を接続する場合は、本製品および周辺機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。可能ならば、関係するすべての機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 本製品にケーブルを接続する場合は、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 電源延長コードや特殊なアダプタを用いる場合は専門家に相談してください。これらは、短絡事故の原因になる場合があります。
- ・ 電源装置が故障していないか、正しい電圧を出力しているか確認してください。電源装置に異常がある場合は、電源装置のメーカーにご相談ください。
- ・ 電源装置は、ご自分で修理しようとししないでください。修理はメーカーまたは専門家に依頼してください。

## 操作上の注意

- ・ 作業を行う前に、本製品に付属しているすべてのマニュアル・ドキュメントをお読みください。
- ・ 電源を入れる前に、ケーブルの接続を確認してください。また電源コードに損傷がないことを確認してください。
- ・ マザーボード上にクリップやネジなどの金属を落とさないようにしてください。短絡事故の原因になります。
- ・ 埃・湿気・高低温を避けてください。湿気のある場所で本製品を使用しないでください。
- ・ 本製品は安定した場所に設置してください。
- ・ 本製品を修理する場合は、代理店などの専門家に依頼してください。

# 本ガイドについて

## 本ガイドの表記について

本書では重要な注意事項について、以下の記号(アイコン)を用いています。表示内容をよく理解して必ずお守りください。



**警告:** 感電やけがなどの人身事故を防ぐために必ず守らないといけない注意事項です。



**注意:** 装置や部品の故障や破損を防ぐために必ず守らないといけない注意事項です。



**重要:** 作業を正しく完了するために必ず守らないといけない注意事項です。



**注:** 作業を正しく完了するために必要なヒントと情報です。

## 詳細情報

本書に記載できなかった最新の情報は以下で入手できます。また、BIOSや添付ソフトウェアの最新版があります。ASUS連絡先情報を参照してください。

### 1. ASUS ウェブサイト

ASUS のハードウェア・ソフトウェア製品に関する最新情報があります。各国や地域に対応したサイトがあるので、ASUS サポート情報を参照してください。

### 2. 追加ドキュメント

パッケージ内容によっては、追加のドキュメントが同梱されている場合があります。注意事項や代理店・販売店が追加した最新情報などです。これらは、本書がサポートする範囲には含まれていません。



# P4P800-X 仕様のまとめ

CPU	ソケット478 対応の Intel® Pentium®4 / Celeron プロセッサをサポート Intel® ハイパースレディングテクノロジーをサポート
チップセット	Intel® 865PE Intel® ICH5
フロントサイドバス (FSB)	800/533/400 MHz
メモリ	デュアルチャンネルメモリアーキテクチャ 最大 4GB メモリの 4 x 184 ピン DDR DIMM ソケット バッファなし非 ECC DDR DIMMs PC3200/PC2700/ PC2100 をサポート ASUS ハイパーバステクノロジ
拡張スロット	1 x AGP 8X/4X (0.8V または1.5V のみ) 4 x PCI
記憶装置	2 x UltraDMA 100/66/33 コネクタ 2 x シリアル ATA コネクタ
オーディオ	ADI AD1888 SoundMAX 6チャンネルオーディオCODEC S/PDIF アウトインターフェイスをサポート
LAN	Realtek RTL8100C 10/100 Mbps ファースト・イーサー ネットコントローラ
特別機能	Power Loss Restart ASUS MyLogo ASUS EZ Flash ASUS C.P.R. (CPU パラメータリコール) ASUS CrashFree BIOS 2
AI クロックアップ	インテリジェントCPU周波数チューナー ASUS JumperFree SFS システムを100 ~ 400MHz まで1単位で選択可能 調整可能な FSB/DDR 比。固定 AGP/PCI 周波数 ASUS C.P.R. (CPU パラメータリコール)
背面パネル I/O	1 x パラレルポート 1 x シリアルポート 1 x PS/2 キーボードポート 1 x PS/2 マウスポート 4 x USB 2.0 ポート 1 x RJ45 ポート 1 x S/PDIF アウトインターフェイス ラインイン/ラインアウト/マイク ポート

(次ページに続く)

# P4P800-X 仕様のまとめ

内部 I/O	2 x 4つの追加USB 2.0 ポート用USB 2.0 コネクタ CPU/ シャーシファンコネクタ 20ピン /4ピン ATX 12V 電源コネクタ CD/AUX コネクタ GAME/MIDI ポートコネクタ 20ピンパネルコネクタ 前面パネルオーディオコネクタ シャーシ侵入コネクタ シリアル 2 (COM2) コネクタ S/PDIF アウトコネクタ
BIOS 機能	3Mb Flash ROM、AMI BIOS、ACPI、PnP、DMI2.0、WfM 2.0、SM BIOS 2.3
業界基準	PCI 2.3、USB 2.0/1.1
管理可能性	DMI 2.0、WOL/WOR by PME、シャーシ侵入
電源条件	ATX 電源装置 (24ピンと4ピンの12Vプラグ付き)
フォームファクタ	ATX フォームファクタ: 30.5 cm x 20.8 cm
サポートCDの内容	デバイスドライバ ASUS PC Probe ASUS Live update Utility ウイルス駆除 ソフトウェア(OEMバージョン)

\* 仕様は、将来予告なしに変更することがあります。

# 第1章

本章では、P4P800-X マザーボードの機能について説明いたします。これには、マザーボードコンポーネントの簡単な説明、およびレイ出力、ジャンパ設定、コネクタの図が含まれます。

## はじめに

## 1.1 ようこそ!

ASUS® P4P800-X マザーボードをお買い上げいただきありがとうございます!

ASUS P4P800-X マザーボードは、800FSBをサポートするIntel® 865PEチップセットに基づいており、多数の新しい機能と最新テクノロジーを提供し、ASUS高品質マザーボードの豊富な製品群の標準となっています。

マザーボードの取り付け、およびマザーボードにハードウェアデバイスの取り付けを開始する前に、下に一覧する付属品が梱包にあるかチェックしてください。

## 1.2 梱包の内容

P4P800-X の梱包に、次の付属品があるかチェックしてください。

- ✓ ASUS P4P800-X マザーボード
- ✓ ASUS マザーボードサポート CD
- ✓ 2 x シリアル ATA ケーブル
- ✓ 1 x UltraDMA 100/66 ケーブル
- ✓ 1 x フロッピーディスクケーブル
- ✓ I/O シールド
- ✓ 予備のジャンパキャップ用バッグ
- ✓ ユーザーガイド



付属品が足りないときや破損しているときは、販売店にご連絡ください。

## 1.3 特殊機能

### 最新のプロセッサテクノロジー

本マザーボードは、478ピン表面実装ZIFソケットを通して最新のIntel® Pentium® 4プロセッサをサポートします。Pentium 4プロセッサには、800/533/400 MHzシステムバス、Intel® ハイパースレッディングテクノロジー、パワー設計が組み込まれており、最大3.6+ GHzのコア周波数を可能にして最大6.4GB/秒のデータ転送速度を実現しています。1-7ページをご覧ください。

### デュアルチャネル DDR 400 のサポート

デュアルチャネルDDRメモリアーキテクチャを採用したこのマザーボードは、システムメモリのバンド幅を2倍にするソリューションを実現して、システム性能を高めています。また、DDR400/333/266 非ECC DDR DIMMを使用して4GBまでのシステムメモリをサポートしながら、最新の3Dグラフィックスやマルチメディア、インターネットアプリケーションに対して最大6.4GB/秒のデータ転送速度を提供します。

## シリアル ATA ソリューション



本マザーボードは、オンボードのSATAインターフェイスを通して新しいシリアルATAテクノロジーをバンドリングしています。シリアルATA仕様では低いピンカウントを持つ薄くて、曲げやすいケーブル、軽減された電圧要件、最大150 MB/秒のデータ転送速度、古いパラレルATAとのソフトウェア互換性が得られます。1-19 ページをご覧ください。

## ASUS ハイパーパステクノロジー



ASUS のこの独特なテクノロジーは Intel® 865PEチップセットの可能性を最適化して、競争の激しい 865PE ベースのソリューションを間で最高のパフォーマンスを提供しています。

## AGP 8Xサポート



AGP 8X (AGP 3.0)は次世代のVGAインターフェイス仕様で、最大2.12 GB/秒のバンド幅(速度)で拡張されたグラフィックス性能を可能にしています。

## 8 USB 2.0 テクノロジー



本マザーボードはユニバーサルシリアルバス(USB) 2.0仕様を実装して、USB 1.1の12 Mbpsのバンド幅からUSB 2.0の高速480 Mbpsまで、接続速度を劇的に上げています。1-16ページをご覧ください。

## 10/100 Mbps LANサポート



ネットワークに簡単接続、またはオンボードLANポートとブロードバンド接続。3-3ページをご覧ください。

## SoundMAX デジタルオーディオシステム

ADI AD1888 AC197オーディオCODECオンボードは、リアパネルI/OのSony/Philipsデジタルインターフェイス(S/PDIF)ジャックを通して、デジタルオーディオデバイスを使用しながら5.1サラウンドサウンドに対して6チャンネルオーディオ再生を提供します。3-3ページをご覧ください。

## AIオーバークロッキング



この機能は30% (取付けられているCPUとDRAMによって異なります) までのオーバークロッキングを可能にして、システム性能を上げながらシステムの安定性を維持します。2-15 ページをご覧ください。

## CrashFree BIOS 2



この機能により、BIOSコードやデータが破損したとき、サポートCDやフロッピーディスクからオリジナルのBIOSデータを復元することが可能になります。この保護により、交換用のROMチップを買う必要がなくなります。2-6 ページをご覧ください。

## 1.4 組み立ての前に

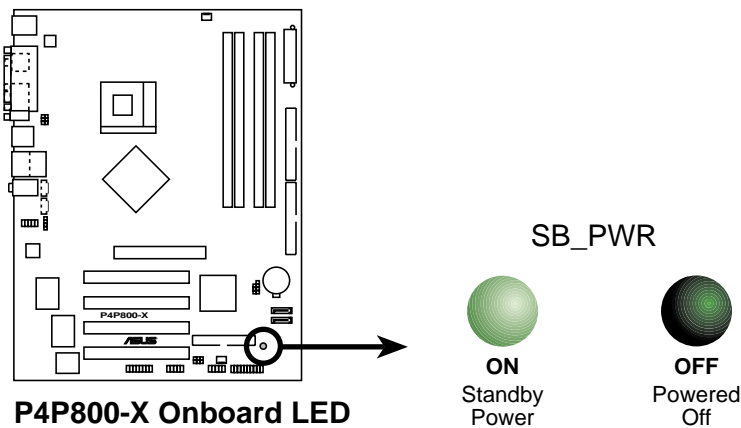
マザーボードに各パーツを取り付ける前やマザーボードの設定を変更する前に、次の事項に注意してください。



1. 各パーツに触れる前に、コンセントから電源コードを抜きます。
2. 静電気による損傷を防ぐために、各パーツに触れる前に、アースされたりストストラップを使用するか、電源装置のケースなど、安全にアースされた物体または金属物体に触れてください。
3. ICに触れないように、各パーツは両手で端を持つようにしてください。
4. 各パーツを取り外すときは、必ずアースされた静電防止パッドの上に置くか、コンポーネントに付属する袋に入れてください。
5. パーツの取り付け、取り外しを行う前に、ATX電源ユニットのスイッチがオフの位置にあるか、もしくは電源コードが電源装置から取り外されていることを確認してください。そうしないと感電したり、マザーボードや各パーツの故障の原因になります。

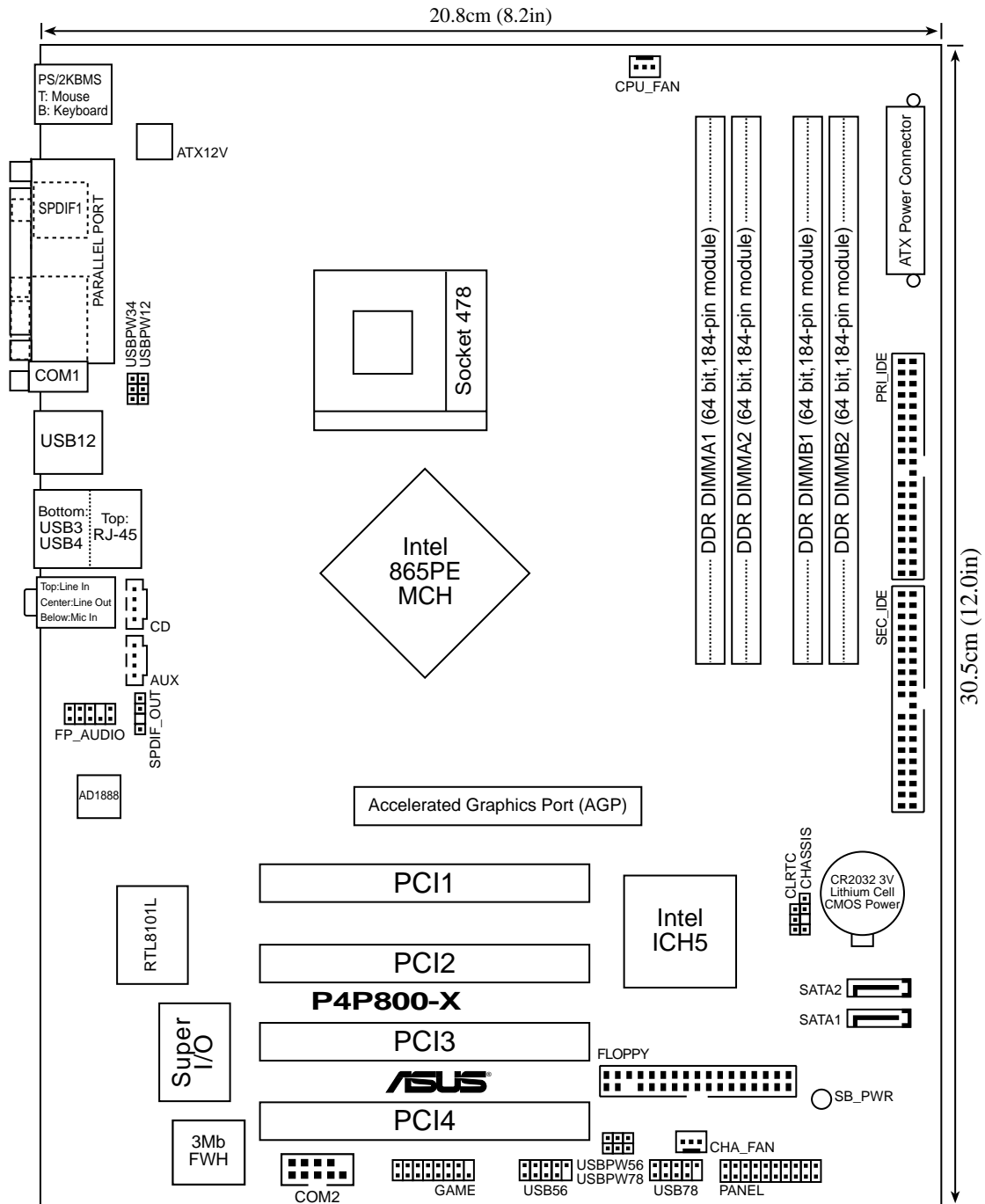
### オンボードLED

マザーボードにはスタンバイLEDが搭載されています。緑のLEDが点灯している時は、システムがオン、スリープモード、ソフトオフモードになっていることを示します。これは、マザーボードに各パーツを取り付けたり、取り外したりする前に、システムを遮断し、電源ケーブルを抜く必要があることを意味しています。下のイラストは、オンボードLEDの場所を示しています。



# 1.5 マザーボードの概要

## 1.5.1 マザーボードのレイアウト



## 1.5.2 設置方向

マザーボードを取り付けるとき、シャーシを正しい方向に設置していることを確認してください。外部ポートのある端を、下の図に示すようにシャーシの背面部分に合わせます。

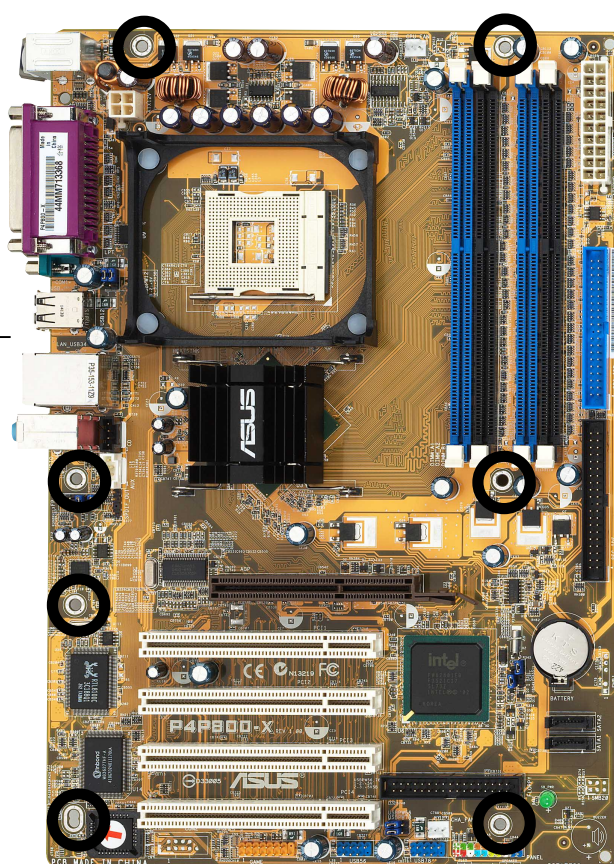
## 1.5.3 ネジ穴

7本のネジを円で示した穴に取り付け、マザーボードをシャーシに固定します。



ネジをきつく締めすぎないでください! 閉め過ぎるとマザーボードが破損する原因となります。

この面をシャーシのリア  
に合わせます

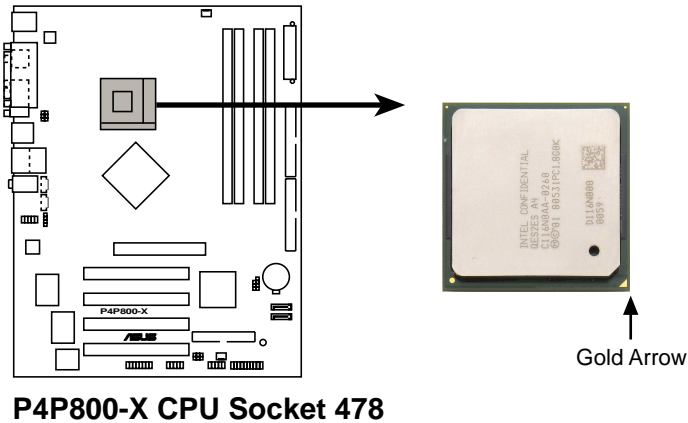




## 1.6 中央処理装置 (CPU)

### 1.6.1 概要

Intel® Pentium® 4 Northwood/Prescott プロセッサには1つの隅に金色の三角形のマークが付いています。このマークは、プロセッサのピン1がCPUソケットの特定の隅に一致する必要があることを示します。



P4P800-X CPU Socket 478



CPUをソケットに間違って取り付けると、ピンが曲がりCPUがひどく損傷する原因となります!

### Intel® ハイパースレディングテクノロジーに関する注意



- ・ 本マザーボードは、ハイパースレディングテクノロジーを搭載したIntel® Pentium® 4 CPUの478ピンランドパッケージをサポートします。
- ・ ハイパースレディングテクノロジーは、Windows® XP および Linux 2.4.x (カーネル)以降のバージョンの元でサポートされます。Linux の元では、ハイパースレッドコンパイラを使用してコードをコンパイルします。他のオペレーティングシステムを使用している場合、BIOS セットアップのハイパースレディングテクノロジーの項目を無効にして、システムの安定性を確保してください。
- ・ Windows® XP Service Pack 1または以降のバージョンをインストールするようにお勧めします。
- ・ サポートされるオペレーティングシステムをインストールする前に、BIOSでハイパースレディングテクノロジーを有効にしていることを確認してください。
- ・ ハイパースレディングテクノロジーの詳細については、[www.intel.com/info/hyperthreading](http://www.intel.com/info/hyperthreading) にアクセスしてください。

このマザーボードでハイパースレディングテクノロジーを使用するには、次の手順に従います。

1. ハイパースレディングテクノロジーをサポートするIntel® Pentium® 4 CPUを取り付けます。
2. システムの電源をオンにし、BIOS セットアップに入ります(第2章:BIOSセットアップを参照)。拡張メニューの下で、ハイパースレディングテクノロジーの設定項目がEnableに設定されていること確認します。この項目はハイパースレディングテクノロジーをサポートするCPUを取り付けている場合にのみ表示されます。
3. コンピュータを再起動します。

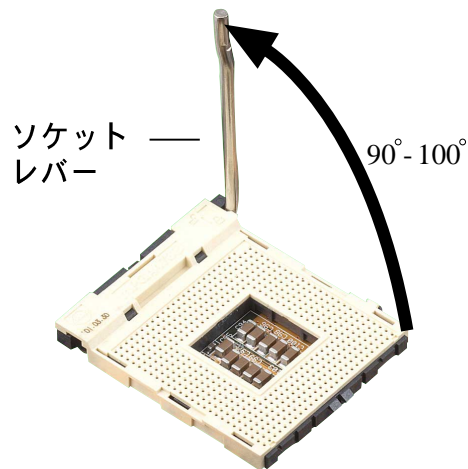
## 1.6.2 CPUを取り付ける

次の手順に従って、CPUを取付けます。

1. マザーボードで、478ピンZIFソケットを探します。
2. レバーを横側に押し、ソケットのロックを解除し、90°-100°の角度まで持ち上げます。



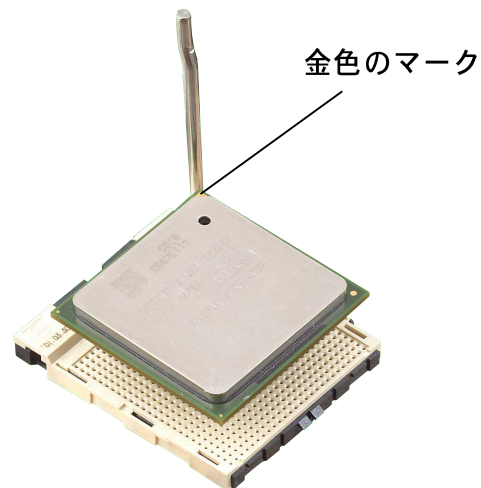
ソケットレバーが90°-100°の角度に持ち上げられていることを確認してください。そうでないと、CPUは完全にフィットしません。



3. CPUを、そのマークが付いたコーナーがソケットレバーの台に一致するように、ソケットの上に配置します。
4. CPUが適切な位置にフィットするまで、ソケットにそっと差し込みます。



CPUは1つの方向にしか正しくフィットしません。CPUをソケットに差し込むときに無理に力を入れしないでください。ピンが曲がったり、CPUが損傷する原因となります。



5. CPUを適切な場所に取り付けいたら、ソケットレバーを押し下げてCPUを固定します。レバーがサイドタブでカチッと鳴ると、ロックされたことを示します。
6. ヒートシンクパッケージに付属する取扱説明書に従って、CPUヒートシンクとファンを取り付けます。
7. CPUファンケーブルを、マザーボードのCPUファンコネクタに接続します。

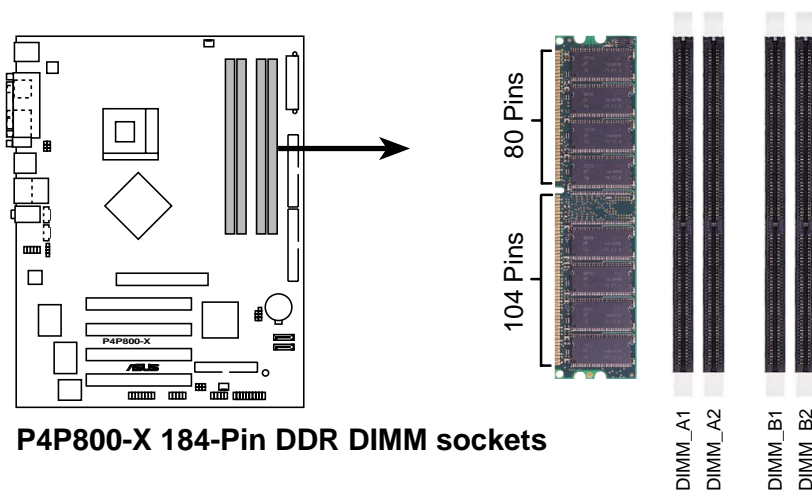


CPUを取り付けた後、4ピンATX電源コネクタを接続します。

## 1.7 システムメモリ

### 1.7.1 概要

次の図は、ソケットの位置を説明しています。



DDR DIMM には、一方向にのみフィットするようにノッチが付いています。DIMMが損傷する原因となるので、DIMMをソケットに無理に押し込まないでください。

### 1.7.2 メモリ構成

本項のメモリ構成を使用して、64MB、128MB、256MB、512MB、1GB DDR DIMMをDIMMソケットに取り付けることができます。

#### 重要な注意



- ・ 推奨する構成以外のDDR DIMMを取り付けると、メモリサイジングエラーとシステムブートエラーが起こる原因となります。表1 の推奨構成をご使用ください。
- ・ まず青い DIMM スロットを使用してください。
- ・ デュアルチャネル構成では、各チャネルに対して同一の（同じタイプとサイズの）DDR DIMMペアのみを取り付けてください。
- ・ 常に同じCASレイテンシを持つ DIMM を取り付けてください。そうでないと、システムは低い周波数で動作します。最適の互換性を得るには、同じベンダーからメモリモジュールを入手することをお勧めします。推奨ベンダーリストのページ1-10を参照してください。
- ・ 4つのソケットが全て1GB DIMMに取り付けられているとき（合計4GB）、ICH5Rリソース割当によりシステムは（4GBより少し少ない）3+GBしか検出できません。
- ・ 3つのメモリソケットに取り付けられた3つのDDR DIMMは、単一チャネルモードで機能します。
- ・ メモリ周波数がCPUFSBに一致することを確認してください。設定については、表2を参照してください。

表1 推奨するメモリ構成

		ソケット			
モード		DIMM_A1 (青)	DIMM_A2 (黒)	DIMM_B1 (青)	DIMM_B2 (黒)
シングルチャンネル	(1)	取り付け	-	-	-
	(2)	-	取り付け	-	-
	(3)	-	-	取り付け	-
	(4)	-	-	-	取り付け
デュアルチャンネル	(1)	取り付け	-	取り付け	-
	(2)	-	取り付け	-	取り付け
	(3)*	取り付け	取り付け	取り付け	取り付け

\*デュアルチャンネル構成の場合(3)、以下を行ってください。

- ・ 4つのソケットすべてに同じDIMMを取り付ける、または
- ・ DIMM\_A1とDIMM\_B1 (青いソケット)には同じDIMMペアを
- ・ DIMM\_A2とDIMM\_B2 (黒いソケット)には同じDIMMペアを取り付けてください。

表 2 メモリ周波数/CPU FSB 同期

このマザーボードは、CPU FSB(フロントサイドバス)とDDR DIMMの種類に従って、異なるメモリ周波数をサポートします。

CPU FSB	DDR DIMM タイプ	メモリ周波数
800 MHz	PC3200/PC2700/PC2100	400/320*/266 MHz
533 MHz	PC2700/PC2100	333/266 MHz
400 MHz	PC2100	266 MHz



\*800MHz FSB CPU を使用しているとき、PC2700 DDR DIMMはチップセットの制限により320MHz (333MHzではなく) でのみ動作します。

## DDR400 QVL

サイズ	ベンダー	モデル	ブランド	サイド	コンポーネント	DIMM サポート		
						A	B	C
256MB	A DATA	MDOAD5F3G31Y0D1E02	N/A	SS	ADD8608A8A-5B	•	•	•
256MB	A DATA	MDOHY6F3G31Y0N1E0Z	Hynix	SS	HY5DU56822CT-D43	•	•	•
256MB	A DATA	MDOSS6F3G31Y0K1E0Z	SAMSUNG	SS	K4H560838E-TCCC	•	•	•
512MB	A DATA	MDOAD5F3H41Y0D1E02	N/A	DS	ADD8608A8A-5B	•	•	•
512MB	A DATA	MDOHY6F3H41Y0N1E0Z	Hynix	DS	HY5DU56822CT-D43	•	•	•
512MB	A DATA	MDOSS6F3H41Y0N1E0Z	SAMSUNG	DS	K4H560838F-TCCC	•	•	•
512MB	ATP	AG64L64T8SQC4S	SAMSUNG	DS	K4H560838D-TCC4	•	•	•

(次ページに続く)

## DDR400 QVL

サイズ	ベンダー	モデル	ブランド	サイド	コンポーネント	DIMM サポート		
						A	B	C
256MB	BRAIN POWER	B6U808-256M-SAM-400	SAMSUNG	SS	K4H560838D-TCC4	•	•	•
512MB	BRAIN POWER	B6U808-512M-SAM-400	SAMSUNG	DS	K4H560838D-TCC4	•	•	•
256MB	CENTURY	DXV6S8MC5BC3U27E	MICRON	SS	MT46V32M8TG-5BC	•	•	•
256MB	CENTURY	DXV6S8SSCCD3K27C	SAMSUNG	SS	K4H560838D-TCCC	•	•	•
256MB	CENTURY	DXV6S8SSCCE3K27E	SAMSUNG	SS	K4H560838E-TCCC	•	•	•
512MB	CENTURY	DXV2S8MC5BC3U27E	MICRON	DS	MT46V32M8TG-5BC	•	•	•
512MB	CENTURY	DXV2S8SSCCD3K27C	SAMSUNG	DS	K4H560838D-TCCC	•	•	
512MB	CENTURY	DXV2S8SSCCE3K27E	SAMSUNG	DS	K4H560838E-TCCC	•	•	•
256MB	CORSAIR	CMX256A-3200C2PT	Winbond	SS	W942508BH-5	•	•	•
256MB	CORSAIR	VS256MB330308147	SAMSUNG	SS	K4H560838D-TCB3	•	•	•
256MB	CORSAIR	VS256MB400	VALUE seLecT	SS	VS32M8-5	•	•	•
512MB	CORSAIR	CMX512-3200C2	Winbond	DS	N/A	•	•	•
512MB	CORSAIR	VS512MB333	VALUE seLecT	DS	VS32M8-6	•	•	•
512MB	CORSAIR	VS512MB400	VALUE seLecT	DS	VS32M8-5	•	•	•
256MB	elixir	M2U25664DS88B3G-5T	NANYA	SS	N2DS25680BT-5T	•	•	•
512MB	elixir	M2U25664DS88B3G-5T	NANYA	DS	N2DS25680BT-5T	•	•	
256MB	GEIL	GD3200-256V	GEIL	SS	GLIL DDR 32M8	•	•	•
512MB	GEIL	GD3200-512V	GEIL	DS	GLIL DDR 32M8	•	•	
512MB	GEIL	GE5123200B	GEIL	DS	GL3LC32G88TG-5A	•	•	
128MB	Hynix	HYMD216646C(L)6-H	Hynix	SS	HY5DU561622CT-H	•		
256MB	Hynix	HYMD232726B(L)8-H	Hynix	SS	HY5DU56822BT-H	•	•	
256MB	Hynix	HYMD232726B(L)8-J	Hynix	SS	HY5DU56822BT-J	•	•	
256MB	Infineon	HYS64D32300GU-5-C	Infineon	SS	HYB25D256800CE-5C	•	•	•
256MB	Infineon	HYS64D32300GU-6	Infineon	SS	HYB25D256800CE-6C	•	•	•
512MB	Infineon	HYS64D32300GU-5-B	Infineon	DS	HYB25D256800CE-6C	•	•	•
512MB	Infineon	HYS64D64320GU-5-C	Infineon	DS	HYB25D256800CE-6C	•	•	•
512MB	Infineon	HYS64D64320GU-6-C	Infineon	DS	HYB25D256800CE-6C	•	•	•
256MB	KINGSTON	KVR400X64C3A/256	Hynix	SS	HY5DU56822BT-D43	•	•	•
512MB	KINGSTON	KVR333X64C25/512	Hynix	DS	HY5DU56822BT-J	•	•	•
512MB	KINGSTON	KVR33X64C/256	Kingston	DS	03208DHIT-6	•		
512MB	KINGSTON	KVR400X64C3A/512	Hynix	DS	HY5DU56822BT-D43	•	•	•
256MB	Kreton	N/A	VT	SS	VT3225804T-5	•	•	•
512MB	Kreton	N/A	VT	DS	VT3225804T-5	•	•	
256MB	MICRON	MT8VDDT3264AG-40BCB	MICRON	SS	MT46V32M8TG-5BC	•	•	
512MB	MICRON	MT16VDDT6464AG-40BCB	MICRON	DS	MT46V32M8TG-5BC	•	•	•
256MB	PSC	AL5D8B53T-5B1K	PSC	SS	A2S56D30BTP	•	•	•
512MB	PSC	AL6D8A53T1-5B	PSC	DS	A2S56D30ATP	•		
512MB	PSC	AL6D8B53T-5B1K	PSC	DS	A2S56D30BTP	•		
256MB	SAMSUNG	M368L3223ETM-CCC	SAMSUNG	SS	K4H560838E-TCCC	•	•	•
256MB	SAMSUNG	M368L3223ETM-CCC	SAMSUNG	SS	K4H560838E-TCCC	•	•	•
256MB	SAMSUNG	M368L3223FTN-CCC	SAMSUNG	SS	K4H560838F-TCCC	•	•	
256MB	SAMSUNG	M368L6423FTN-CB	SAMSUNG	DS	K4H560939S-TCCC	•	•	•
512MB	SAMSUNG	M368L6423ETM-CCC	SAMSUNG	DS	K4H560838E-TCCC	•	•	•
512MB	SAMSUNG	M368L6423FTN-CCC	SAMSUNG	DS	K4H560838F-TCCC	•	•	
256MB	Veritech	VT400FMV/2561103	VT	SS	VT56DD32M8PC-5	•	•	•
512MB	Veritech	VT400FMV/5121003	VT	DS	VT56DD32M8PC-5	•	•	

SS - 片面

DS - 両面

DIMM サポート:

- A - シングルチャンネルメモリ構成で、任意のスロットに差し込み、一つのペアのモジュールをサポート。
- B - デュアルチャンネルメモリ構成の一つのペアとして、青またはブラックのスロットに差し込み、一つのペアのモジュールをサポート。
- C - デュアルチャンネルメモリ構成の二つのペアとして、すべてのスロットに差し込み、4枚のモジュールをサポート。

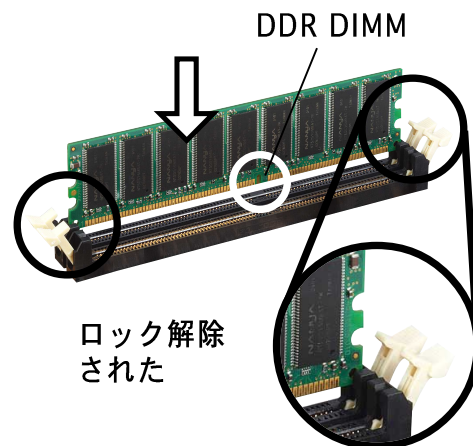


ASUS 正規のベンダーからのみ DDR DIMM を取得してください。最新の QVL については、ASUS の Web ([www.asus.com](http://www.asus.com)) にアクセスしてください。

### 1.7.3 DIMMの取り付け

次の手順に従ってDIMMを取り付けます。

1. 保持クリップを外側に押して、DIMMのロック解除を行います。
2. DIMMのノッチがソケットの裂け目に一致するようにDIMMをソケットに合わせます。
3. 保持クリップがカチッと音を立てて適切な位置に閉まりDIMMが正しく取り付けられるまで、DIMMをソケットにしっかりと挿入します。



DDR DIMM には、一方向にのみフィットするようにノッチが付いています。DIMMが損傷する原因となるので、DIMMをソケットに無理に押し込まないでください。

## 1.8 拡張スロット

拡張カードを取り付け構成するには、次の手順に従います：

1. シャーシに付属する取扱説明書に従って拡張カードを取り付けます。
2. システムの電源をオンにし、必要なBIOS設定を行います。BIOSセットアップの詳細については、第2章をご覧ください。
3. IRQをカードに合わせます。次ページの表を参照してください。
4. カードのマニュアルに従って、拡張カード用のドライバおよびソフトウェアアプリケーションをインストールします。

### 1.8.1 割り込みの割り当て

IRQ	優先順位	標準機能
0	1	システムタイマ
1	2	キーボードコントローラ
2	N/A	プログラム可能割当
3*	11	PCIステアリング用IRQホルダ
4*	12	通信ポート (COM1)
5*	13	PCIステアリング用IRQホルダ
6	14	フロッピーディスクコントローラ
7*	15	プリンタポート (LPT1)
8	3	システムCMOS/リアルタイムクロック
9*	4	PCIステアリング用IRQホルダ
10*	5	PCIステアリング用IRQホルダ
11*	6	PCIステアリング用IRQホルダ
12*	7	PS/2互換マウスポート
13	8	数値データプロセッサ
14*	9	1次 IDE チャンネル
15*	10	2次 IDE チャンネル

\* これらのIRQは、通常ISAまたはPCIデバイスで利用できます。

### 1.8.2 このマザーボード用のIRQ割当

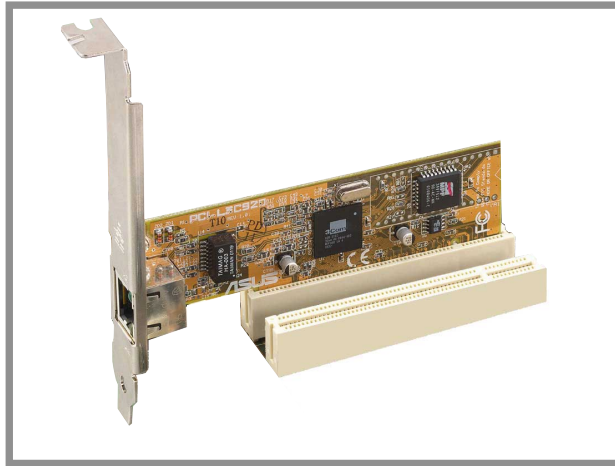
	A	B	C	D	E	F	G	H
PCIスロット1	—	—	—	—	—	共有	—	—
PCIスロット2	—	—	—	—	—	—	共有	—
PCIスロット3	—	—	—	—	—	—	—	共有
PCIスロット4	—	—	—	—	共有	—	—	—
PCIスロット5	—	—	—	—	—	共有	—	—
AGP スロット	使用済み	—	—	—	—	—	—	—
オンボードUSB 1.1/2.0コントローラ	—	—	—	—	共有	共有	共有	共有
オンボードLAN	—	—	—	—	—	—	共有	—
オンボードオーディオ	—	—	使用済み	—	—	—	—	—



共有スロットでPCIカードを使用しているとき、デバイスがIRQの共有サポートしていることを、またはカードがIRQ割当を必要としていないことを確認してください。そうでないと、2つのPCIグループの間で競合が発生し、システムが不安定になったりカードを操作できなくなったりします。

### 1.8.3 PCI スロット

スロットはLANカード、SCSIカード、USBカード、およびPCI仕様に準拠するその他のカードなどのPCIカードをサポートします。



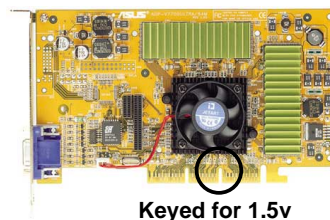
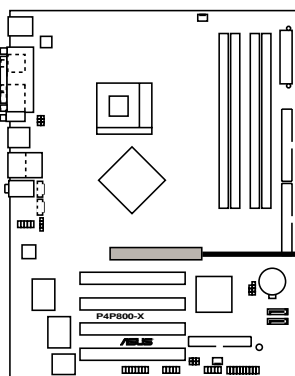
### 1.8.4 AGP スロット

AGP8X/4X カードをサポートする加速グラフィックスポート(AGP)スロット。AGPカードをご購入になるとき、+1.5V仕様に準拠するカードを求めていることを確認してください。

カードのゴールデンフィンガーのノッチは、マザーボードのAGPスロットに確実にフィットするためのものです。



3.3V AGP カードはこのマザーボードでサポートされていません。このマザーボードには、1.5V AGPカード以外のカードを取り付けしないでください。



Keyed for 1.5v

**P4P800-X Accelerated Graphics Port (AGP)**



ATi 9500 または 9700 Pro Series VGAカードを取り付ける場合、最適の性能とオーバークロックの安定性を得るには、カードバージョンPN xxx-xxxxx-30以降のみを使用してください。



## 1.9 ジャンパ

### 1. RTC RAM (CLRTC1)の消去

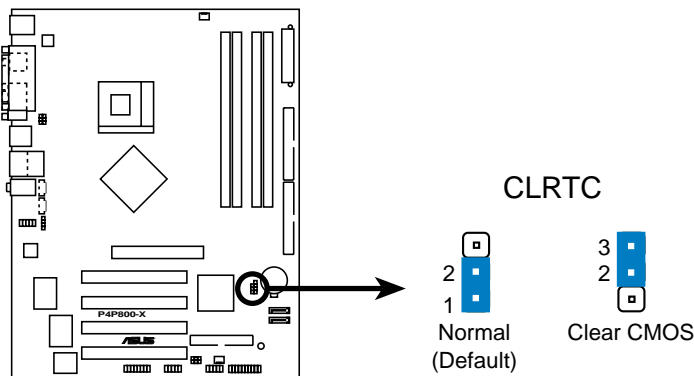
このジャンパによって、CMOSのリアルタイムクロック(RTC) RAMを消去できます。CMOS RTC RAM データを消去することによって、CMOSメモリの日、時間、システムのセットアップパラメータを消去できます。CMOSのRAMデータは、システムパスワードなどのシステムセットアップ情報を含み、オンボードのボタンセルバッテリーによって電源を供給されます。

RTC RAMを消去するには、次の手順を実行します。

1. コンピュータの電源をオフにし、電源コードを抜きます。
2. ピン1-2 (デフォルト) からピン2-3にジャンパキャップを移します。ピン2-3に約5~10秒間キャップをかぶせ、それからキャップをピン1-2に戻します。
3. 電源コードを差し込み、コンピュータの電源をオンにします。
4. ブートプロセスの間、<Del>キーを押し下げBIOSセットアップに入ったらデータを再入力します。



RTC RAMを消去するとき以外は、ジャンパのキャップをデフォルトの位置から取り外さないでください。キャップを取り外すと、システムのブートエラーの原因となります!



**P4P800-X Clear RTC RAM**



オーバークロックによりシステムがハングアップしたとき、RTCを消去する必要はありません。オーバークロックによるシステムエラーの場合は、C.P.R (CPUパラメータリコール) 機能を使用してください。システムをシャットダウンしてリブートすると、BIOS はパラメータ設定をデフォルト値に自動的にリセットできます。

## 2. USBデバイスウェイクアップ (3ピンUSBPW12、USBPW34、USBPW56、USBPW78)

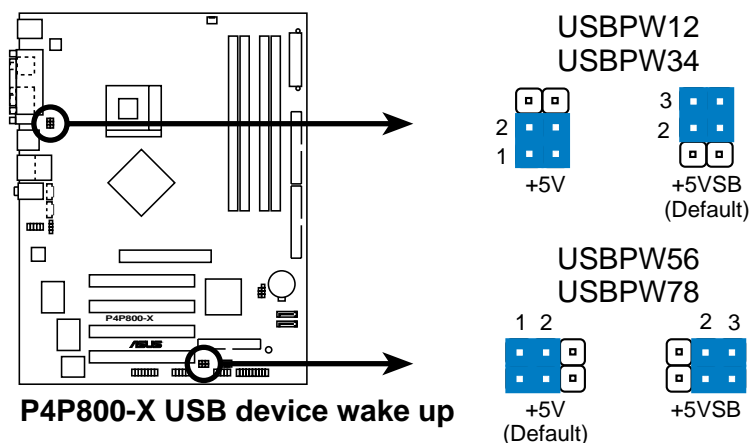
これらのジャンパを+5V側に設定した場合、システムに接続したUSBデバイスを使用して、S1スリープモード (CPUは停止、メモリはリフレッシュ状態の低消費電力モード) から復帰することができます。また+5VSB側に設定すると、さらに低消費電力なS3 (STR)、S4 (休止状態) からの復帰ができます。

USBPW12とUSBPW34 ジャンパは背面USBポート用です。

USBPW56とUSBPW78ジャンパは内部USBコネクタ用で、追加USBポートに接続できます。



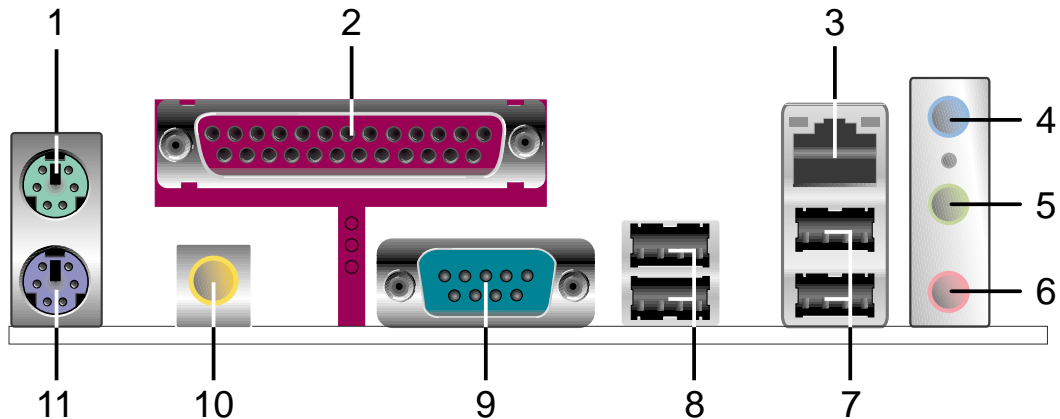
- USBデバイスのウェイクアップ機能は、それぞれのUSBポートに対して+5VSBリード線で500mAを提供できる電源装置を必要とします。それ以外の場合、システムの電源はオンになりません。
- 消費される総電流は、標準状態でもスリープモードに入っている場合でも、電源装置の容量(+5VSB)を超えることはできません。



## 1.10 コネクタ

本項では、マザーボードのリアパネルと内部コネクタに関する説明と図を提供します。

### 1.10.1 背面パネルコネクタ



1. PS/2 マウスポート。このポートは PS/2 マウス用です。
2. 平行ポート。この 25 ピンポートは平行プリンタ、スキャナ、またはその他のデバイスを接続します。
3. RJ-45 ポート。このポートは、ネットワークハブを通して構内通信網 (LAN) に接続します。
4. ラインインジャック。このラインイン(ライトブルー)ジャックはテーププレーヤーまたはその他のオーディオソースを接続します。6チャンネルモードで、このジャックの機能はリアスピーカー出力になります。
5. ライン出力ジャック。このライン出力(ライム)ジャックはヘッドフォンまたはスピーカーを接続します。6チャンネルモードで、このジャックの機能は前面スピーカー出力になります。
6. マイクジャック。このマイク(ピンク)ジャックはマイクを接続します。6チャンネルモードで、このジャックの機能はウーハー/センターになります。



ライン出力、ラインイン、マイクジャックの機能は、次の表に示すように6チャンネルオーディオ構成を選択するときが変わります。

#### オーディオ2、4、または6チャンネル構成

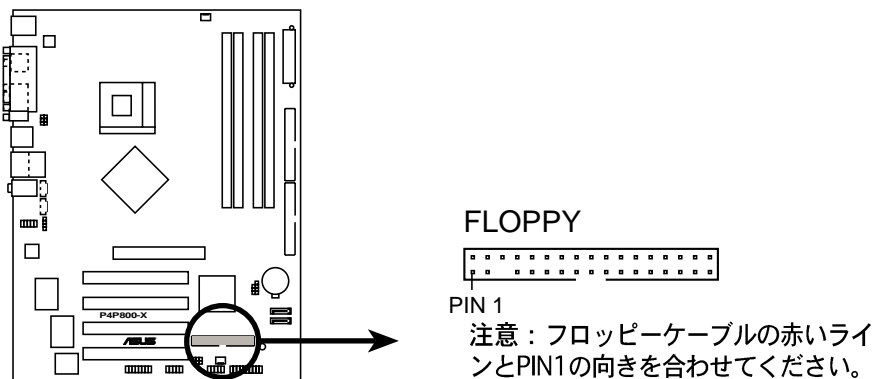
	ヘッドフォン/ 2スピーカー	4スピーカー	6スピーカー
ライトブルー	ラインイン	リアスピーカー出力	リアスピーカー出力
ライム	ライン出力	フロントスピーカー出力	フロントスピーカー出力
ピンク	マイクイン	マイクイン	ウーハー/センター

- 7.USB 2.0 ポート 3 と 4。これら 2 つの 4 ピンユニバーサルシリアルバス (USB)ポートは、USB 2.0 デバイスを接続するために使用できます。
- 8.USB 2.0 ポート 1 と 2。これら 2 つの 4 ピンユニバーサルシリアルバス (USB)ポートは、USB 2.0 デバイスを接続するために使用できます。
- 9.シリアルコネクタ。この 9 ピン COM1 ポートは、シリアルデバイス用です。
- 10.S/PDIF出力ジャック。このジャックは、外付けオーディオ出力デバイスに接続します。
- 11.PS/2 キーボードポート。この紫のコネクタは、PS/2 キーボード用です。

## 1.10.2 内部コネクタ

### 1. フロッピーディスクドライブコネクタ (34-1FLOPPY)

このコネクタは、フロッピーディスクドライブとの接続に使用します。マザーボードに一方の端を接続したら、もう一方の端をフロッピードライブに接続してください(誤った方向へのケーブルの取り付けを防ぐため、このコネクタのピン5は取り外されています)。



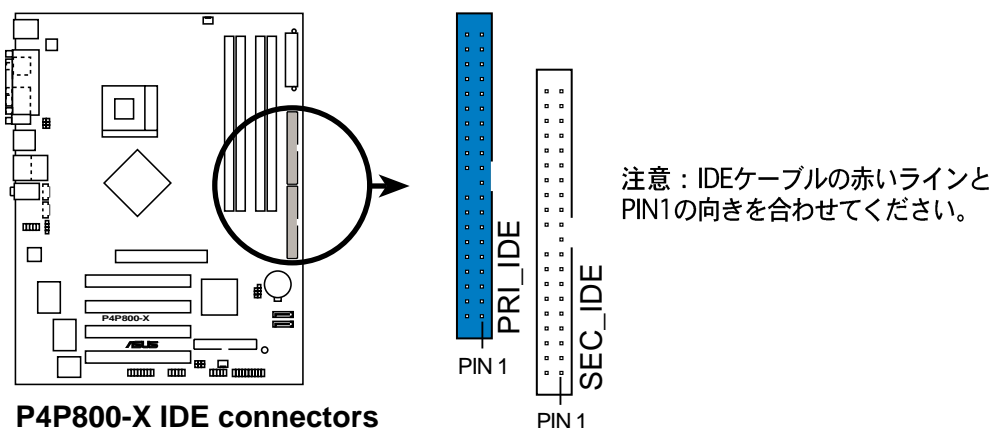
**P4P800-X Floppy disk drive connector**

### 2. IDE コネクタ (40-1ピン PRI\_IDE, SEC\_IDE)

このコネクタは、IDE デバイスの接続に使用し、UltraATA 100 に対応します。ケーブルの青いコネクタをプライマリまたはセカンダリコネクタに接続します。グレーのコネクタをスレーブデバイス、端の黒のコネクタをマスターデバイスに接続します。

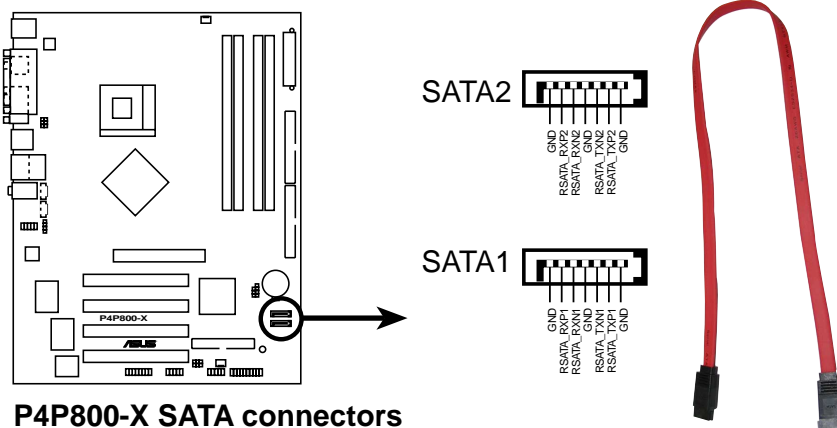


1. マスター/スレーブの設定は、各デバイスのマニュアルをご覧ください。
2. 誤った方向へのケーブルの取り付けを防ぐために、各IDEコネクタのピン20は取り外されています。
3. UltraATAケーブルの青いコネクタの傍にある穴は故意に付けられたものです。



### 3. シリアルATA コネクタ (7ピンSATA1、SATA2)

このコネクタは、次世代の内蔵ストレージデバイス用の薄いシリアルATAをサポートします。現在のシリアルATAインターフェイスにより、133 MB/s (Ultra ATA/133)を組み込んだ標準の平行ATAよりも高速な、150 MB/秒までのデータ転送速度を可能にしています。



P4P800-X SATA connectors



#### シリアルATA に関する重要な注意

- ・ 従来のオペレーティングシステム(DOS、Windows® 98/ME)環境で、シリアルATAコネクタを使用すると、一つのIDEチャンネル(プライマリまたはセカンダリチャンネル)に対するICH5チップセットサポートが無効になります。
- ・ シリアルATAドライブと接続のホットプラグサポートは、本マザーボードではサポートされていません。
- ・ シリアルATAを使用する場合、Windows® XP Service Pack 1をインストールしてください。

## パラレル ATA およびシリアル ATA デバイス構成

次の表は、Intel® ICH5R の仕様による、パラレル ATA とシリアル ATA のデバイス設定です。

ネイティブ: Windows® 2000/XP が該当します。これらのOSでは ICH5 は、最大6台のデバイスをサポートします。

レガシー: MS-DOS や Windows 98/ME が該当します。これらのOSでは ICH5 は、最大4台のデバイスをサポートします。

オペレーティングシステム	P-ATA		S-ATA	
	1次 (2デバイス)	2次 (2デバイス)	ポート 0 (1デバイス)	ポート 1 (1デバイス)
1. Windows® 2000/XP	✓	✓	✓	✓
2. Windows® 98/ME				
Configuration A	✓	—	✓	✓
Configuration B	—	✓	✓	✓
Configuration C	✓	✓	—	—

凡例:

✓ サポート  
— 無効

## BIOSで要求されるIDEの構成設定

上のP-ATAとS-ATAのデバイス構成については、次の表を参照して適切なBIOS設定を行ってください。BIOSアイテムの詳細については、2-13 ページ「2.3.5 IDE 構成」をご覧ください。

BIOSアイテム	Windows® 2000/XP	Windows® 98/ME/NT4.0		
		A	B	C
オンボードIDE操作モード	拡張モード	互換モード	互換モード	互換モード
拡張モードサポートオン	S-ATA	-	-	-
IDEポート設定	-	Primary P-ATA+S-ATA	Sec. P-ATA+S-ATA	P-ATA ポートのみ

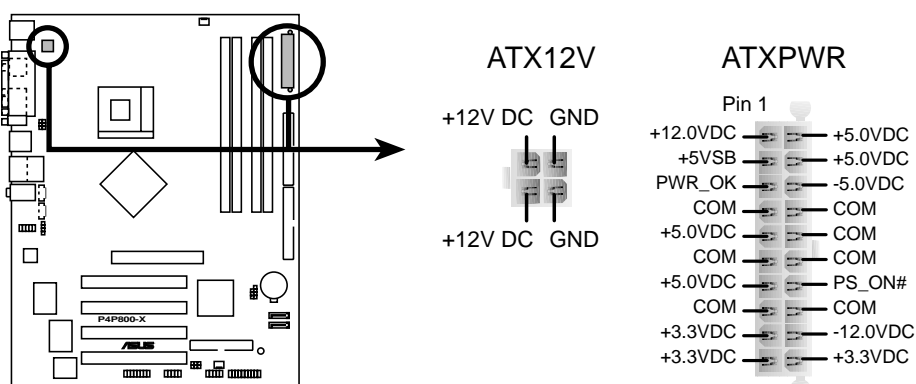
#### 4. ATX 電源コネクタ (20ピン ATXPWR, 4ピン ATX12V)

これらのコネクタはATX 12V電源装置に接続します。電源装置から出るプラグは、一方向でのみこれらのコネクタにフィットするように設計されています。適切な方向を探し、コネクタが完全にフィットするまでしっかり押し下げます。

20ピンATXPWR1コネクタだけでなく、このマザーボードは、4ピン ATX +12V電源プラグを接続して、CPUに十分な電力を提供する必要があります。



お使いのATX 12V電源装置が+12Vリードで8Aを、および+5ボルトのスタンバイリード(+5VSB)で少なくとも1Aを提供できることを確認してください。推奨する最小のワット数は300Wです。適切な電流が供給されていないと、システムは不安定になったり起動できなくなります。



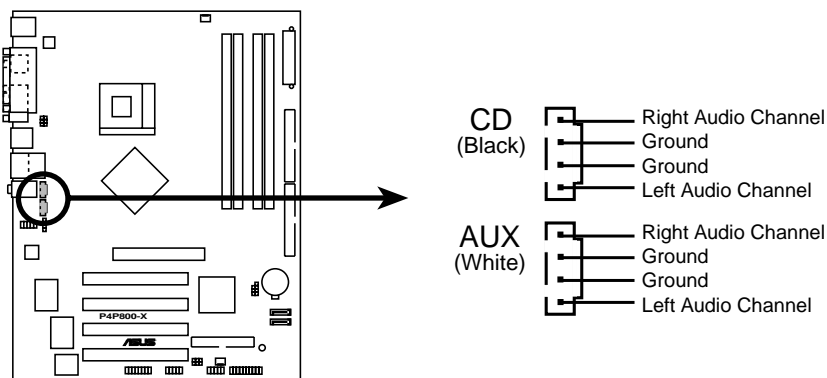
P4P800-X ATX power connectors



4ピンATX12V 電源コネクタの接続を忘れないでください。そうでないと、システムは起動できません。

#### 5. 内部オーディオコネクタ (4ピン CD, AUX)

これらのコネクタによって、CD-ROM、TVチューナー、MPEGカードなどのサウンドソースからステレオオーディオ入力を受信できます。

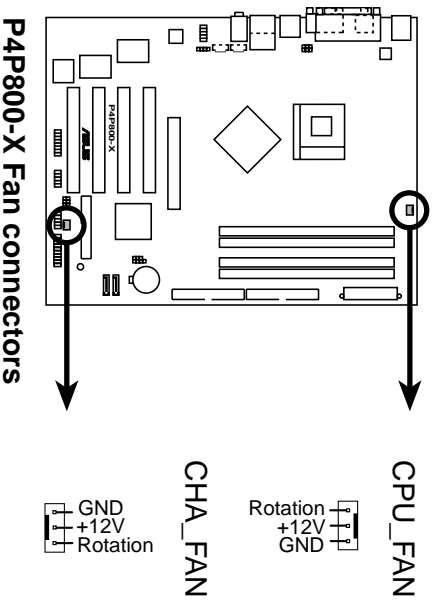


P4P800-X Internal audio connectors

6. CPUおよびシャーシファンコネクタ (3ピンCPU\_FAN、CHA\_FAN)  
ファンコネクタは350mA~740mA (8.88W 最大)の、または+12Vで合計1A~2.22A (26.64W 最大)のクーリングファンをサポートします。各ケーブルの黒いワイヤがコネクタのアーヌ用ピンにぴったり合っていることを確認しながら、ファンケーブルをマザーボードのコネクタに接続してください。

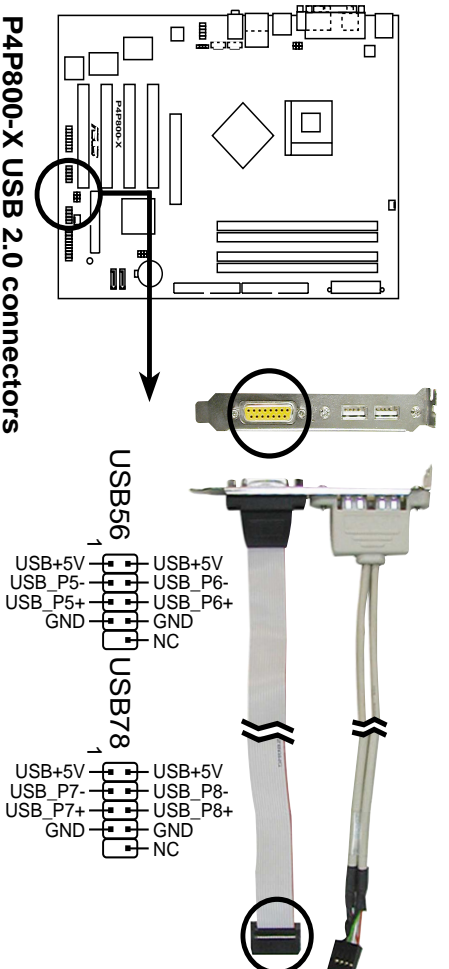


ファンケーブルをファンコネクタに接続するのを忘れないでください。システム内に十分な通気がないと、マザーボードコンポーネントが損傷することがあります。これらはジャンパではありません! ファンコネクタにジャンパキャップをかぶせないでください!



7. USBヘッダ (10-1ピンUSB56、USB78)

背面パネルのUSBポートをすべて使用していても、このヘッダを使用して、USBポートを追加できます。USB 2.0モジュールのUSBケーブルをこのヘッダに接続してください。シャーシ前面パネルにUSBモジュールを取り付けることができます。モジュールには、高解像度カメラ、スキャナ、プリンタなどの次世代USB周辺装置を接続するための、USB 2.0ポートが2つ搭載されています。



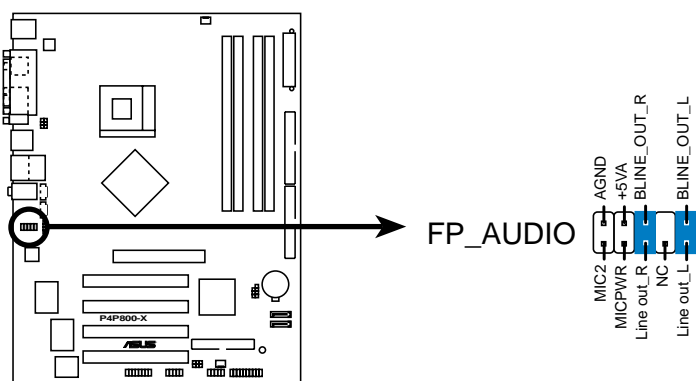
- USB 2.0 モジュールは別売です。
- USB 2.0 機能を使用する前に、ドライバをインストールする必要があります。



## 8. フロントパネルオーディオコネクタ (10-1 ピン FP\_AUDIO)

これはIntelフロントパネルのオーディオケーブル用のインターフェイスで、オーディオデバイスの簡単な接続と制御を可能にしています。

デフォルトで、LINE OUT\_R/BLINE\_OUT\_RとラベルされたピンとLINE OUT\_L/BLINE\_OUT\_Lピンは、ジャンパキャップにより短くなっています。キャップの取り外しは、フロントパネルのオーディオケーブルを接続するときのみ、行ってください。

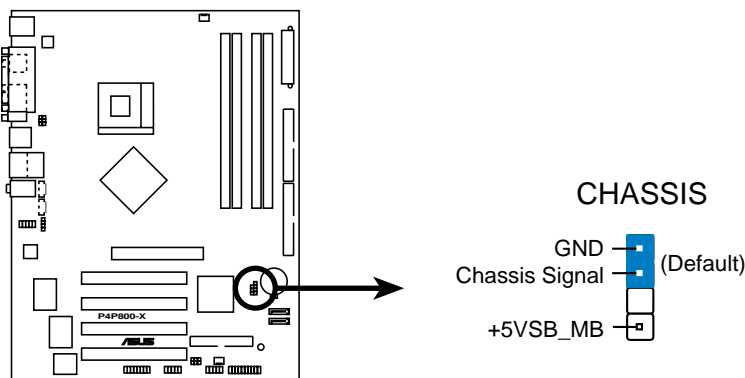


**P4P800-X Front panel audio connector**

## 9. シャーシ侵入コネクタ (4-1 ピン CHASSIS)

このリードは侵入検出機能で設計されたシャーシ用です。これはシャーシ侵入センサーまたはマイクロスイッチなどの、外部検出メカニズムを必要とします。シャーシコンポーネントを取り外すとき、センサーは高レベルの信号を引き起こしてこのリードに送信し、シャーシ侵入イベントを記録します。

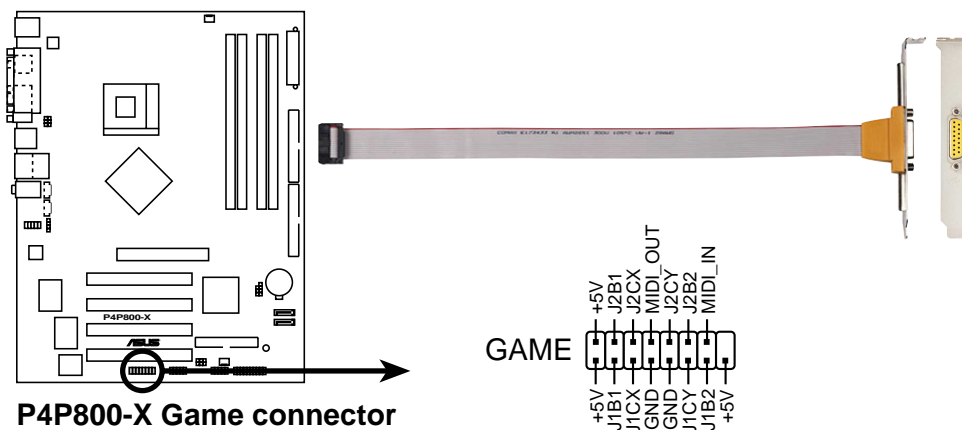
デフォルトで、「シャーシ信号」および「アース」とラベルされたピンは、ジャンパキャップによりショートされています。シャーシ侵入検出機能を使いたい場合、ピンからジャンパキャップを取り外してください。



**P4P800-X Chassis intrusion connector**

## 10. GAME/MIDI コネクタ (16-1 ピン GAME)

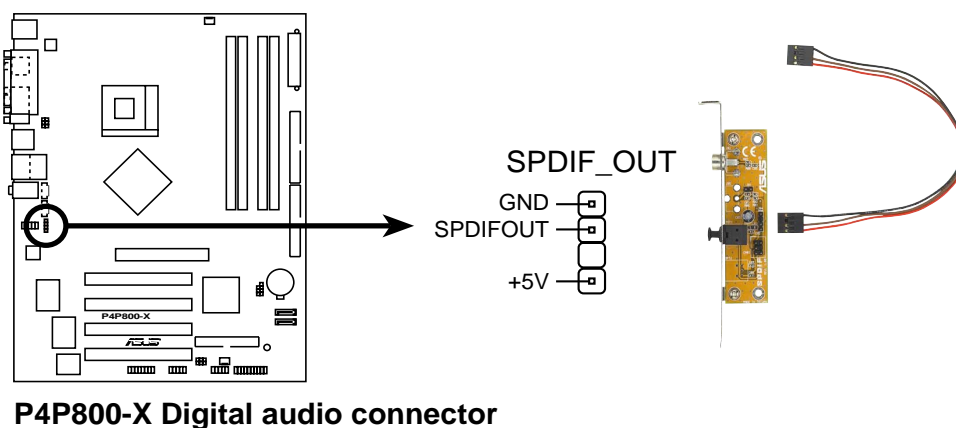
このコネクタはオプションのゲーム/MIDIモジュールをサポートします。ゲーム/MIDIケーブルをこのコネクタに接続してください。モジュールのゲーム/MIDIポートはゲームをプレーする場合にはジョイスティックやゲームパッドを、オーディオファイルを編集する場合にはMIDIデバイスを接続します。



GAME/MIDI モジュールは別個にお買い求めください。

## 11. デジタルオーディオコネクタ (6-1ピン SPDIF\_OUT)

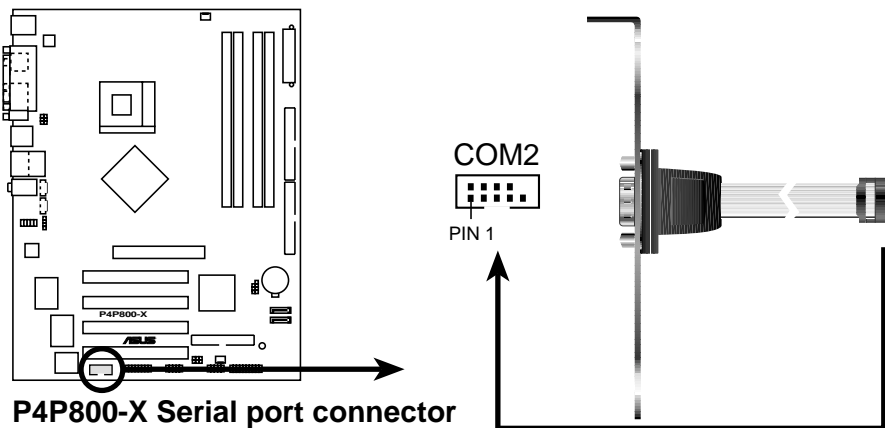
このコネクタは、デジタルサウンド出力を可能にする、S/PDIFオーディオモジュール用です。S/PDIFオーディオケーブルの一方の端をこのコネクタに、もう一方の端をS/PDIFモジュールに接続します。



S/PDIFモジュールは別個にお買い求めください。

## 12. シリアルコネクタ (9 ピン COM2)

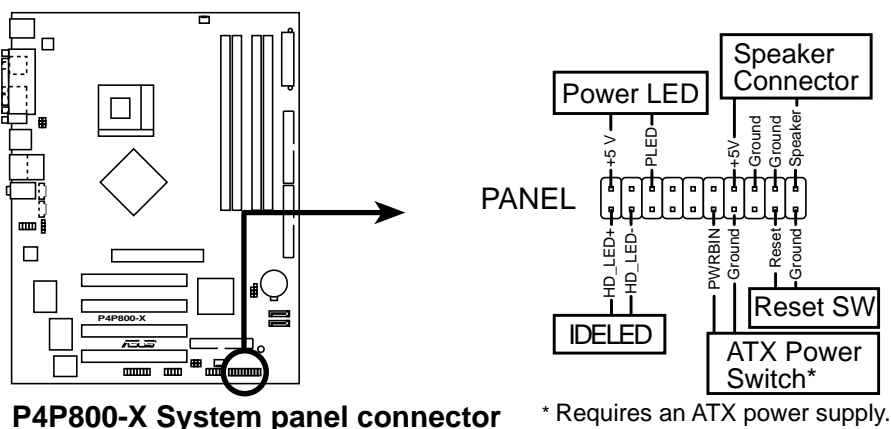
この9ピンコネクタは、COM2ブラケットに接続します。COM2ケーブルをこのコネクタに接続し、シャーシリアパネルの空いているスロットのブラケットに取り付けます。



COM2 ブラケットは別個にお買い求めください。

## 13. システムパネルコネクタ (10-1ピン PANEL)

このコネクタは、複数のシステムフロントパネル機能を提供します。



- ・ システム電源 LED リード (緑の 3-1ピン PLED)

この3-1ピンコネクタはシステム電源に接続します。LEDはシステムの電源をオンにすると点灯し、システムがスリープモードに入ると点滅します。

- ・ システム警告スピーカーリード (オレンジの 4ピン SPKR)

この4ピンコネクタはケースにマウントされたスピーカーに接続され、システムビープ音と警告を鳴らします。

- ・ スイッチリードのリセット (青い 2ピン RESET)  
この2ピンコネクタは、ケースにマウントされたリセットスイッチに接続し、システム電源をオフにすることなくシステムをリブートします。
- ・ ATX 電源スイッチ / ソフトオフスイッチリード (ライトグリーン の 2ピン PWR)  
このコネクタは、システム電源を制御するスイッチに接続します。電源スイッチを押すとシステムはBIOSまたはOS設定に従って、オンとスリープ、またはオンとソフトオフの間で切り替わります。オンモードになっている間に電源スイッチを4秒以上押すと、システムはオフになります。
- ・ ハードディスクアクティビティリード (赤い 2ピン IDE\_LED)  
この2ピンコネクタはHDD LEDケーブル用です。1次または2次IDEコネクタに接続されたデバイスの読み込みまたは書き込み活動を行うと、このLEDが点灯します。



---

システムパネルコネクタは色分けされているため、簡単で確実に接続することができます。説明したように、特定のコネクタの色に注意してください。

---

# 第2章

BIOSセットアップを用いたマザーボードの設定方法を説明します。BIOSパラメータの詳しい解説があります。

## BIOSセットアップ

## 2.1 BIOSの管理更新

次のユーティリティを使って、マザーボードのベーシックインプット/アウトプットシステム (BIOS) の管理更新を行います。

1. ASUS AFUDOS (起動可能なフロッピーディスクを使用して、DOSモードでBIOSを更新)
2. ASUS EZ Flash (POST 中にフロッピーディスクを使用して BIOSを更新)
3. ASUS CrashFree BIOS 2 (BIOSファイルがエラーを起こしたり破損したとき、起動可能なフロッピーディスクまたはマザーボードサポートCDを使用して、BIOSを更新)

これらのユーティリティの詳細については、対応する項を参照してください。

### 重要な注意



- ・ 将来BIOSを復元する必要がある場合に備えて、オリジナルのマザーボードBIOSファイルのコピーを起動可能なフロッピーディスクに保存してください。ASUS更新またはAFUDOSユーティリティを使用して、オリジナルのマザーボードBIOSをコピーします。
- ・ ASUSのWebサイトにアクセスし、ASUS更新ユーティリティを使用してこのマザーボード用の最新のBIOSファイルをダウンロードしてください。

### 2.1.1 起動可能なフロッピーディスクを作成する

1. 次のどれかを実行して、起動可能なフロッピーディスクを作成します。

#### DOS 環境

ドライブに1.44MBフロッピーディスクを挿入します。DOSプロンプトで、`format a: /s`を入力し、<Enter>を押します。

#### Windows® 98SE/ME/XP 環境

- a. 1.44 MBフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
- b. Windows® デスクトップからスタートをクリックし、マイコンピュータを選択します。
- c. 3.5インチフロッピードライブアイコンを選択します。
- d. ファイルフォーマットメニューをクリックし、フォーマットを選択します。3.5インチフロッピーディスクのフォーマットウィンドウが表示されます。
- e. Windows® XP を使用している場合、フォーマットオプションフィールドから Create an MS-DOS startup disk (MS- DOS 起動ディスクの作成) を選択し、Start (スタート) をクリックします。

または

Windows® 98SE/ME を使用している場合、フォーマットのタイプから、Full (完全) オプションボタンを選択し、Start (スタート) をクリックします。

#### Windows® 2000 環境

Windows® 2000に対して、1組の起動ディスクを作成するには、次の手順に従います。

- a. 1.44 MBフロッピーディスクをドライブに挿入します。
- b. Windows® 2000 CDを光学ドライブに挿入します。

- c. スタートをクリックし、ファイル名を指定して実行を選択します。
  - d. 開くフィールドで、D:\bootdisk\makeboot a:<Enter>を入力します。ここで、Dは光学ドライブ文字です。
  - e. <Enter>を押し、スクリーンの指示に従って続行します。
2. 元のまたは最新のマザーボードBIOSファイルを起動可能フロッピーディスクにコピーします。

## 2.1.2 AFUDOSを使用してBIOSを更新する

DOS環境でAFUDOS.EXEユーティリティを使用してBIOSを更新します。

1. ASUSのWebサイト(www.asus.com)にアクセスして、マザーボードの最新のBIOSファイルをダウンロードしてください。BIOSファイルは、ブート可能なフロッピーディスクに保存してください。



BIOSファイル名を紙に書き留めてください。プロンプトで正確なBIOSファイル名を入力する必要があります。

2. サポートCDからBIOSファイルを含むブート可能なフロッピーディスクにAFUDOS.EXEユーティリティをコピーします。
3. フロッピーディスクからシステムをブートします。
4. DOSプロンプトで、コマンドラインを入力します。  
`afudos /i[filename]`  
[filename]は、ブート可能なフロッピーディスクにコピーした最新の（またはオリジナルの）BIOSファイルを意味します。
5. <Enter>を押し、画面は更新プロセスのステータスを表示します。



画面のBIOS情報は参照のためのものです。画面に表示される情報は、次の情報と異なっていることがあります。

```
A:\>afudos /iP4P800X.ROM
AMI Firmware Update Utility - Version 1.10
Copyright (C) 2002 American Megatrends, Inc. All rights reserved.

Reading file ..... done
Erasing flash .... done
Writing flash .... 0x0008CC00 (9%)
```



BIOSを更新している間、システムをシャットダウンまたはリセットしないでください!! システムのブートエラーの原因となります!

BIOSの更新プロセスが完了したら、ユーティリティはDOSプロンプトに戻ります。

```
A:\>afudos /iP4P800X.ROM
AMI Firmware Update Utility - Version 1.10
Copyright (C) 2002 American Megatrends, Inc. All rights reserved.

Reading file ..... done
Erasing flash .... done
Writing flash .... 0x0008CC00 (9%)
Verifying flash .. done

A:\>
```

5. ハードディスクからシステムをリブートします。

### 2.1.3 AFUDOSを使用してPCからBIOSをコピーする

AFUDOS.EXE ユーティリティは、現在のシステムBIOS設定をフロッピーディスクまたはハードディスクにコピーするためにも使用されます。コピーは、システムBIOSがエラーを起こしたり破損した場合のバックアップとして使用できます。

AFUDOS.EXEを使用してPCからBIOSをコピーするには、次の手順に従います：

1. DOSプロンプトで、次のようにコマンドラインを入力します。

```
afudos /o[filename]
```

[filename]には、メインのファイル名として(8)文字以下の英数字と拡張子として(3)文字以下の英数字からなるファイル名を、ユーザーが自由に入れることができます。

2. <Enter>キーを押します。



画面のBIOS情報は、参照専用です。実際の画面の表示は、図に表示されるものとまったく同じでないこともあります。

メインのファイル名

拡張子

```
A:\>afudos /oMYBIOS03.rom
AMI Firmware Update Utility - Version 1.10
Copyright (C) 2002 American Megatrends, Inc. All rights reserved.

Reading flash ..... 0x0008CC00 (9%)
```



3. ユーティリティは、デフォルトで現在のシステムBIOSをフロッピーディスクにコピーします。フロッピーディスクが書き込み禁止になっていないか、ファイルを格納するだけの十分なスペース（少なくとも600 KB）があるかを確認してください。

```
A:\>afudos /oMYBIOS03.ROM
AMI Firmware Update Utility - Version 1.10
Copyright (C) 2002 American Megatrends, Inc. All rights reserved.

Reading flash ..... done

A:\>
```

BIOSのコピープロセスが完了したら、ユーティリティはDOSプロンプトに戻ります。

#### 2.1.4 ASUS EZフラッシュを使用して、BIOSを更新する

ASUS EZフラッシュ機能により、ディスクから長い起動プロセスを行ったりDOSベースのユーティリティを使用しなくても、BIOSを簡単に更新できます。EZフラッシュはBIOSファームウェアに組み込まれているため、パワーオンセルフテスト(POST)の間に<Alt+F2>を押すだけでアクセスできます。

ASUS EZを使用してBIOSを更新するには、次の手順を実行します。

1. ASUSのWebサイト([www.asus.com](http://www.asus.com))にアクセスしてマザーボードの最新のBIOSファイルをダウンロードし、そのファイル名をP4P800X.ROM.に変更します。BIOSファイルをフロッピーディスクに保存します。
2. システムをリブートします。
3. EZフラッシュを起動するには、POSTの間に<Alt+F2>を押して次を表示します。

```
User recovery requested. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
```



- ・ ドライブにフロッピーディスクが見つからない場合、「フロッピーが見つかりません」というエラーメッセージが表示されます。
- ・ フロッピーディスクに正しいBIOSファイルが見つからない場合、「P4P800X.ROMが見つかりません!」というエラーメッセージが表示されます。

4. BIOSファイルを含むフロッピーディスクを挿入します。P4P800X.ROM.ファイルがフロッピーディスクに見つからない場合、EZフラッシュはBIOS更新プロセスを実行し、プロセスが完了したらシステムを自動的にリブートします。



BIOSを更新している間、システムをシャットダウンまたはリセットしないでください! システムのブートエラーが発生する原因となります!

```
User recovery requested. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
Floppy found!
Reading file "P4P800X.ROM". Completed.
Start flashing...
Flashed successfully. Rebooting.
```

### 2.1.5 CrashFree BIOS 2でBIOSを回復する

CrashFree BIOS 2自動回復ツールにより、マザーボードの現在のBIOSがエラーを起こしたり破損した場合、マザーボードのサポートCDから、またはBIOSファイルを含むフロッピーディスクからBIOSを自動的に回復できます。



- ・ BIOS更新プロセスを続行する前に、マザーボードに付属するサポートCDまたはマザーボードBIOSを含むフロッピーディスクを準備します。
- ・ オリジナルのマザーボードBIOSのコピーをブート可能なフロッピーディスクに保存している場合、このディスクを使用してBIOSを回復することもできます。「2.1.1 ブート可能なフロッピーディスクを作成する」をご覧ください。

フロッピーディスクからBIOSを回復するには、次の手順を実行します。

1. システムをブートします。
2. 破損したBIOSが検出された場合、次のメッセージが表示されます。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
```

3. このマザーボードのオリジナルの、または最新のBIOSファイルを含むフロッピーディスクを挿入します。ASUSのWebサイトからダウンロードしたBIOSファイルが異なるファイル名を持っている場合、そのファイル名をP4P800X.ROMに変更します。P4P800X.ROMが見つかったら、BIOS更新プロセスが続行します。



フロッピーディスクのBIOSファイル名が"P4P800X.ROM"と変更されていることを確認してください。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
Floppy found!
Reading file "P4P800X.ROM". Completed.
Start flashing...
```



BIOSを更新している間、システムをシャットダウンしたりリセットしないでください! システムのブートエラーの原因となります!

4. BIOSの更新プロセスが完了したら、システムをリブートしてください。

サポートCDからBIOSを回復するには、次の手順を実行します。

1. システムをブートします。
2. 破損したBIOSが検出されたら、次の画面メッセージが表示されます。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
```



ドライブにフロッピーディスクが見つからない場合、システムはCD-ROM.を自動的にチェックします。

3. CD-ROM.にサポートCDを設置します。サポートCDには、このマザーボードのオリジナルBIOSが含まれています。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
Floppy not found!
Checking for CD-ROM...
CD-ROM found.
Reading file "P4P800X.ROM". Completed.
Start flashing...
```



BIOSを更新している間、システムをシャットダウンしたりリセットしないでください! システムのブートエラーの原因となります!

4. BIOSの更新プロセスが完了したら、システムをリブートしてください。



回復されたBIOSは、このバイオスの最新のBIOSバージョンでないことがあります。CD-ROM から ASUS の Web サイト([www.asus.com](http://www.asus.com))にアクセスして、最新のBIOSファイルをダウンロードしてください。

## 2.2 BIOS の設定プログラム

本マザーボードはプログラム可能なファームウェアハブ (FWH) をサポートし、「2.1 BIOSの管理更新」で説明した付属ユーティリティを使用して更新が可能です。

BIOSセットアッププログラムは、マザーボードの取り付けをしたときや、システムの再構成をした時、「Run Setup」を促された時に使用します。本項では、この機能を使用してシステムを構成する方法を説明します。

設定プログラムを使用するように指示されていない場合でも、コンピュータの構成を変更することができます。例えば、セキュリティパスワード機能を有効にしたり、電源管理設定を変更できます。このためには、コンピュータがこれらの変更を認識し、ファームウェアハブの CMOS RAM に記録できるように、BIOS設定プログラムを使用してシステムを再構成する必要があります。

マザーボードのファームウェアハブは、設定ユーティリティを保管します。コンピュータを起動するとき、システムはこのプログラムを実行する機会を提供します。電源オン自己テスト(POST)の間に<Del>を押すと設定ユーティリティに入ります。<Delete>を押さなければ、POSTはそのテストルーチンを続行します。

POST後に設定に入るには、<Ctrl+Alt+Delete>を押して、またはシステムシャッターのリセットボタンを押してシステムを再起動します。システムをオフにし、それからまたオンにすることによって再起動することもできます。ただし、これは最初の2つの方法が失敗した場合、最後の手段として行ってください。

設定プログラムはできるだけ簡単に使用できるように設計されています。メニュー主導のプログラムとなることによって、ナビゲーションキーを使用してさまざまなサブメニューをスクロールしたり、使用可能なオプションから選択することができます。



---

このマザーボードのデフォルトの BIOS 設定はほとんどの条件に適用されて、最適のパフォーマンスを実現しています。BIOS 設定を変更した後システムが不安定になったら、デフォルト設定をロードしてシステム互換性と安定性を確保してください。終了メニューの下のロードデフォルト設定を選択します。「2.7 終了メニュー」をご覧ください。

---



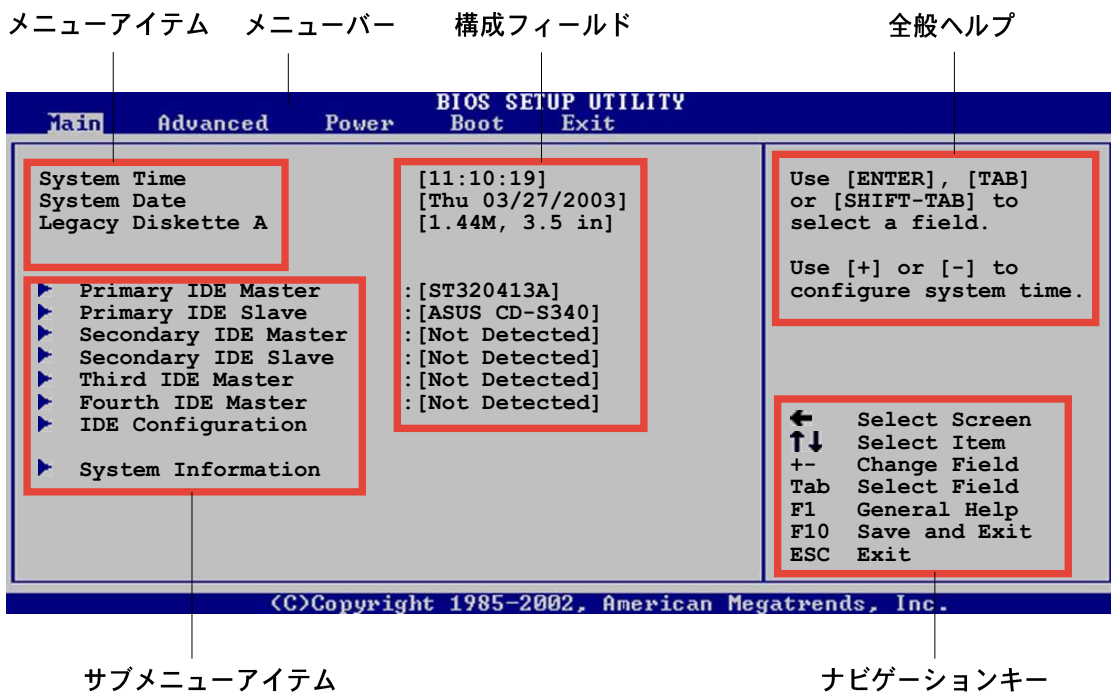
---

本章に表示された BIOS のセットアップスクリーンはあくまでも参照目的で、スクリーンに表示されるセットアップと異なることもあります。

ASUS web サイト([www.asus.com](http://www.asus.com))にアクセスして、このマザーボードの最新の BIOS をダウンロードしてください。

---

## 2.2.1 BIOSメニュースクリーン



## 2.2.2 メニューバー

スクリーン上部のメニューバーには、次のメインアイテムがあります。

Main	基本システム構成の変更用
Advanced	拡張システム設定の変更用
Power	拡張電源管理(APM)構成の変更用
Boot	システム起動構成の変更用
Exit	終了オプションとロードデフォルト設定の選択用

メニューバーのアイテムを選択するには、希望するアイテムがハイライト表示されるまで、キーボードの右または左矢印キーを押します。

## 2.2.3 ナビゲーションキー

メニュースクリーンの右下には、その特定メニュー用のナビゲーションキーがあります。ナビゲーションキーを使用してメニューのアイテムを選択し、設定を変更します。

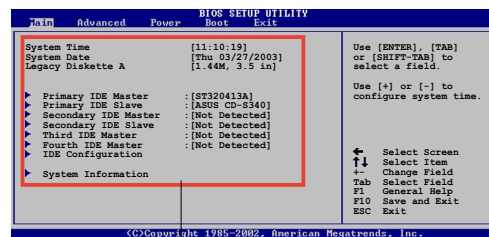


ナビゲーションキーの一部は画面ごとに異なります。

## 2.2.4 メニューアイテム

メニューバーのハイライト表示されたアイテムは、そのメニューの特定アイテムを表示します。例えば、メインを選択するとメインのメニューアイテムが表示されます。

メニューバーの他のアイテム(拡張、電源、終了)には、それぞれのメニューアイテムがあります。



メインのメニューアイテム

## 2.2.5 サブメニューアイテム

メニュースクリーンの各アイテムの前の黒い三角形は、そのアイテムがサブメニューであることを意味しています。サブメニューを表示するには、そのアイテムを選択し <Enter> を押します。

## 2.2.6 構成フィールド

これらのフィールドはメニューアイテムの値を示します。アイテムがユーザー構成可能であれば、そのアイテムの反対側にあるフィールドの値を変更できます。ユーザー構成可能でないアイテムを変更することはできません。

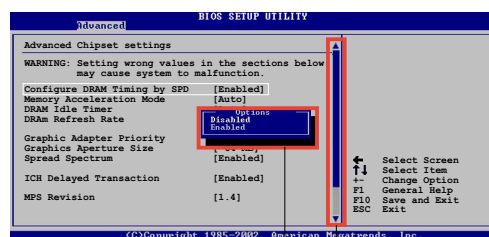
構成可能なフィールドはカッコで囲まれており、選択するとハイライト表示されます。フィールドの値を選択するには、それを選択し <Enter> を押してオプションのリストを表示します。「2.2.7 ポップアップウィンドウ」を参照してください。

## 2.2.7 ポップアップウィンドウ

アイテムを選択し <Enter> を押すと、そのアイテムの構成オプションと共にポップアップウィンドウが表示されます。

## 2.2.8 スクロールバー

画面に収まりきれないアイテムがあるとき、スクロールバーがメニュースクリーンの右側に表示されます。上/下矢印キーを押して、または <Page Up>/<Page Down> キーを押してスクリーンの他のアイテムが表示されます。



ポップアップウィンドウ

スクロールバー

## 2.2.9 全般ヘルプ

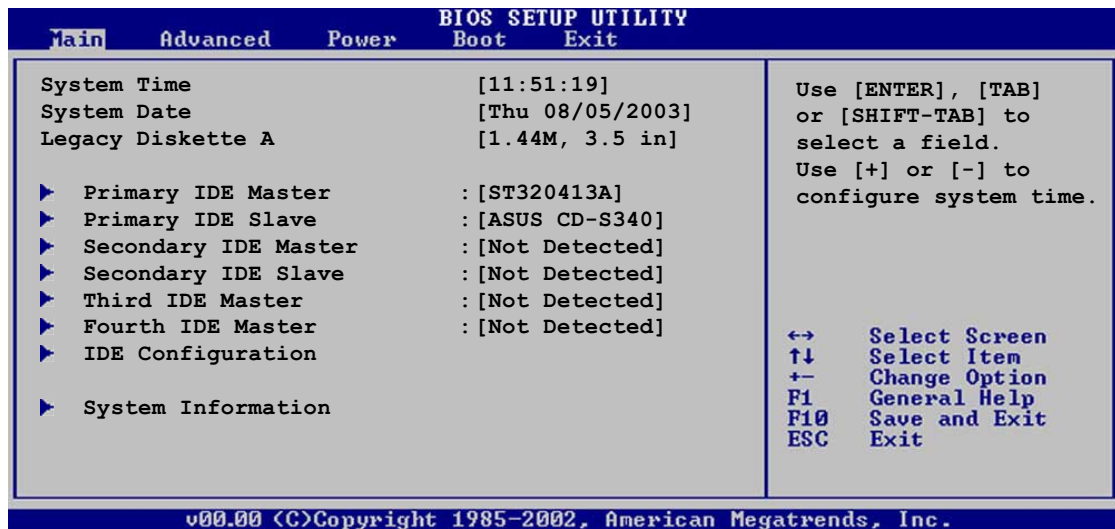
メニュースクリーンの右上には、選択したアイテムの簡単な説明があります。

## 2.3 メインメニュー

BIOS 設定プログラムに入るとき、メインのメニュー画面が表示され、基本システム情報の概要を提供します。



メニュー画面アイテムの情報およびそれらのアイテムを移動する方法については、「2.2.1 BIOS メニュー画面」項を参照してください。



### 2.3.1 System Time [xx:xx:xxxx]

システム時間を設定します。

### 2.3.2 System Date [Day xx/xx/xxxx]

システム日付を設定します。

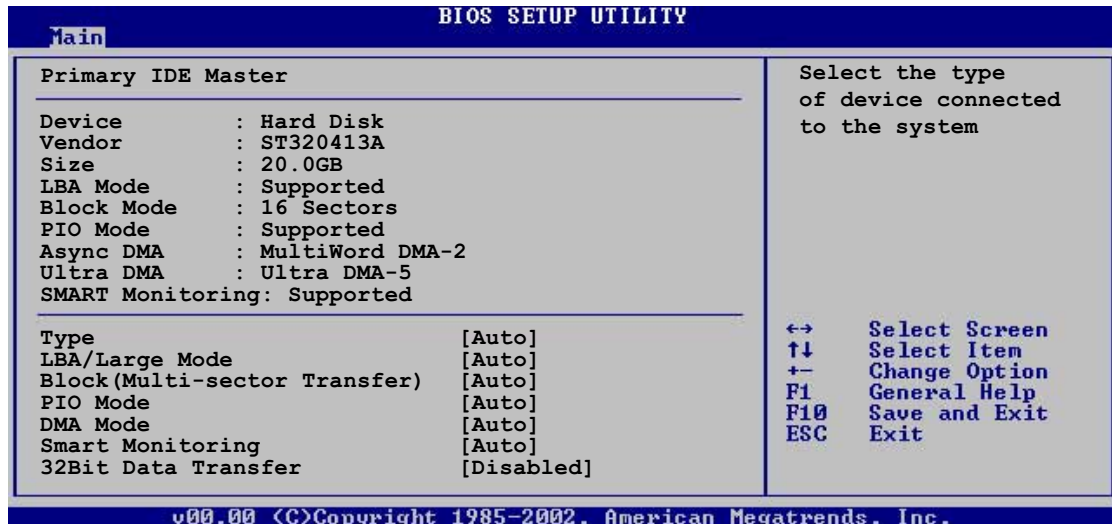
### 2.3.3 Legacy Diskette A [1.44M, 3.5 in.]

取り付けられたフロッピードライブのタイプを設定します。

構成オプション: [Disabled] [360K, 5.25 in.] [1.2M, 5.25 in.] [720K, 3.5 in.] [1.44M, 3.5 in.] [2.88M, 3.5 in.]

## 2.3.4 1次および2次IDE マスタ/スレーブ; 3次および4次マスタ

BIOSは接続されたIDEデバイスを自動的に検出します。それぞれのIDEデバイスに対して別個のサブメニューがあります。デバイスアイテムを選択し、<Enter>を押すとIDEデバイス情報が表示されます。



BIOSは薄く表示された項目 (Device、Vendor、Size、LBA Mode、Block Mode、PIO Mode、Async DMA、Ultra DMA、SMART Monitoring) を自動的に検出します。これらの項目はユーザーによって変更できません。また、システムに接続されていない場合これらの項目はN/Aと表示されます。

### Type [Auto]

IDEドライブのタイプを選択します。[Auto]に設定すると、適切なIDEデバイスタイプを自動的に選択します。CD-ROMドライブを選択している場合、[CDROM]を選択します。デバイスがZIP、LS-120、MOドライブのどれかであれば、ARMD (ATAPIリムーバブルメディアデバイス)を選択します。

構成オプション: [Not Installed] [Auto] [CDROM] [ARMD]

### LBA/Large Mode [Auto]

LBAモードの有効/無効を切り替えます。デバイスがこのモードをサポートしている場合、[Auto]に設定すると、LBAモードが有効になり、デバイスがLBAモードでフォーマットされていない場合、無効になります。

構成オプション: [Disabled] [Auto]

### Block (Multi-sector Transfer) [Auto]

データマルチセクタ転送の有効/無効を切り替えます。[Auto]に設定されているとき、デバイスがマルチセクタ転送機能をサポートしていれば、デバイス間のデータ転送は一度にマルチセクタを行います。[Disabled]に設定されているとき、デバイス間のデータ転送は一度に1つのセクタを行います。

構成オプション: [Disabled] [Auto]



### PIO Mode [Auto]

PIOモードを選択します。

構成オプション: [Auto] [0] [1] [2] [3] [4]

### DMA Mode [Auto]

DMAモードを選択します。構成オプション: [Auto] [SWDMA0] [SWDMA1]

[SWDMA2] [MWDMA0] [MWDMA1] [MWDMA2] [UDMA0] [UDMA1]

[UDMA2] [UDMA3] [UDMA4] [UDMA5]

### SMART Monitoring [Auto]

スマートモニタリング、分析、報告機能を設定します。

構成オプション: [Auto] [Disabled] [Enabled]

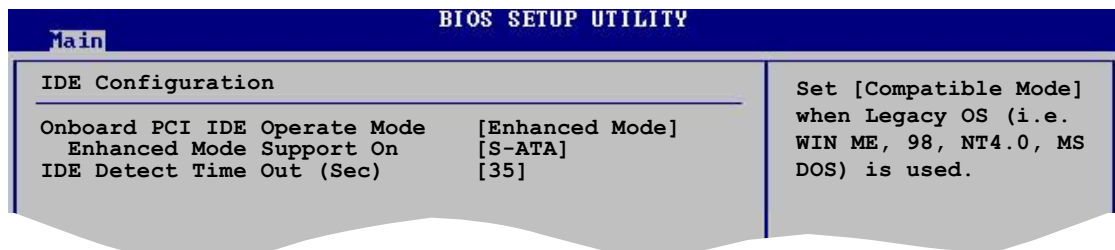
### 32Bit Data Transfer [Disabled]

32ビットデータ転送の有効/無効を切り替えます。構成オプション:

[Disabled] [Enabled]

## 2.3.5 IDE Configuration

このメニューのアイテムはシステムに取り付けられた IDE デバイスの構成を設定または変更します。それらのアイテムを構成したい場合、アイテムを選択し <Enter>を押します。



### Onboard PCI IDE Operate Mode [Enhanced Mode]

インストールされたオペレーティングシステム(OS)に従って、IDE 動作モードを選択します。Windows® 2000/XP などのネイティブ OS を使用している場合、[Enhanced Mode]に設定します。MS-DOS、Linux、Windows ME/98/NT4.0などの古いOSを使用している場合、互換モード [Compatible Mode] に設定してください。

構成オプション: [Compatible Mode] [Enhanced Mode]

### Enhanced Mode Support On [S-ATA]

デフォルト設定 S-ATA は、シリアル ATA とパラレル ATA ポートでネイティブ OS(Windows 2000/XP) を使用します。高い OS 互換性を確保するには、デフォルトの設定を変更しないようにお勧めします。この設定で、シリアル ATA デバイスを取り付けたくない場合のみ、パラレル ATA ポートでレガシー OS(Windows ME/98/98SE/NT4.0) をご使用になれます。

P-ATA+S-ATAとP-ATAオプションは、上級ユーザーしか使うことはできません。これらのオプションのどれかに設定して問題が発生した場合、デフォルト設定S-ATAに戻してください。構成オプション: [P-ATA+S-ATA] [S-ATA] [P-ATA]



エンハンスドモードサポートオンは、アイテムオンボードIDE操作モードがエンハンスドモードに設定されている場合のみ、表示されます。

### IDE Port Settings [Primary P-ATA+S-ATA]

古いタイプのオペレーティングシステムを使用している場合、IDEポートの選択をアクティブにできます。1次パラレルATAとシリアルATAポートを使用したい場合、[Primary P-ATA+S-ATA]に設定します。または、その代わりに2次P-ATAポートを有効にするには、[Secondary P-ATA+SATA]に設定します。[P-ATA Ports Only]に設定すると、ICH5によってサポートされる2つのシリアルATAポートを無効にします。構成オプション: [Primary P-ATA+S-ATA] [Secondary P-ATA+S-ATA] [P-ATA Ports Only]



IDEポート設定は、アイテムオンボードIDE操作モードが互換モードに設定されている場合のみ表示されます。

## IDE Detect Time Out [35]

ATA/ATAPIデバイスを検出するためのタイムアウト値を選択します。構成オプション: [0] [5] [10] [15] [20] [25] [30] [35]

## 2.3.6 システム情報

このメニューは全般的システム仕様の概要を提供します。BIOSはこのメニューのアイテムを自動的に検出します。

BIOS SETUP UTILITY	
Main	
AMIBIOS	
Version	: 08.00.09
Build Date	: 04/28/04
Processor	
Type	: Intel(R) Pentium(R) 4 Family CPU 2.40G
Speed	: 2399MHz
Count	: 1
System Memory	
Size	: 256MB
	↔ Select Screen
	↑↓ Select Item
	+ - Change Option

## AMI BIOS

自動検出された BIOS 情報を表示します。

## Processor

自動検出された CPU 仕様を表示します。

## System Memory

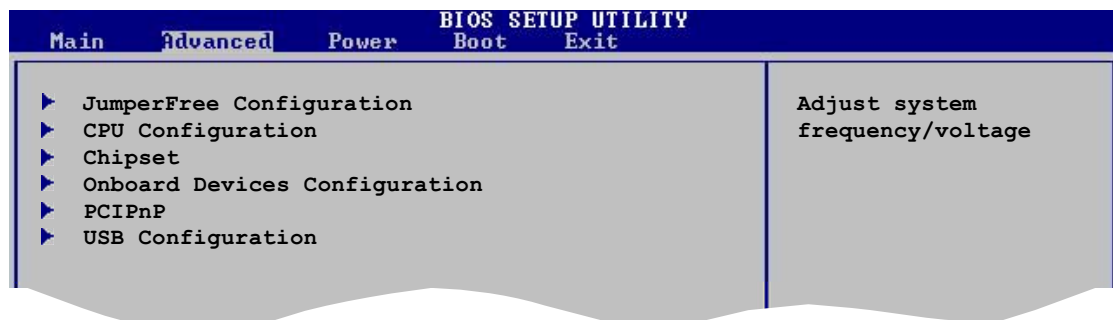
自動検出されたシステムメモリを表示します。

## 2.4 拡張メニュー

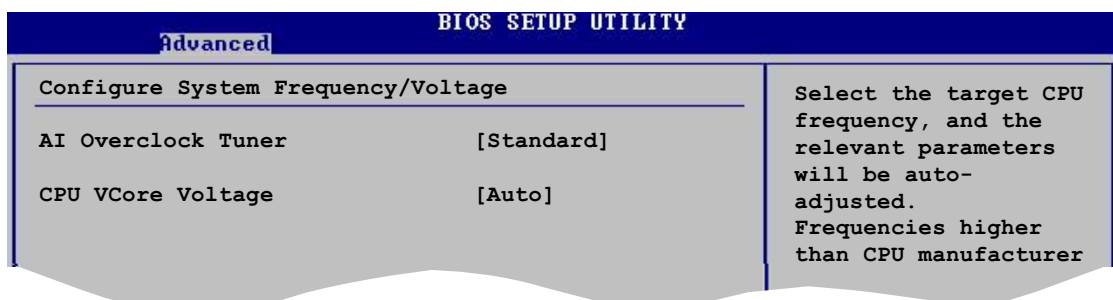
拡張メニューアイテムは、CPUとその他のシステムデバイスの設定を変更します。



拡張メニューアイテムの設定を変更するときは、注意してください。間違ったフィールド値は、システムの誤動作の原因となります。



### 2.4.1 JumperFree 構成



#### AI Overclock Tuner [Standard]

希望する内部CPU周波数を設定するために、CPUオーバークロックオプションを選択できるようにします。現在のオーバークロックオプションのどれかを選択してください。構成オプション: [Manual] [Standard] [Overclock 5%] [Overclock 10%] [Overclock 20%] [Overclock 30%]



きわめて高い CPU 周波数を選択すると、システムが不安定になる原因となります。この場合、デフォルト設定に戻してください。

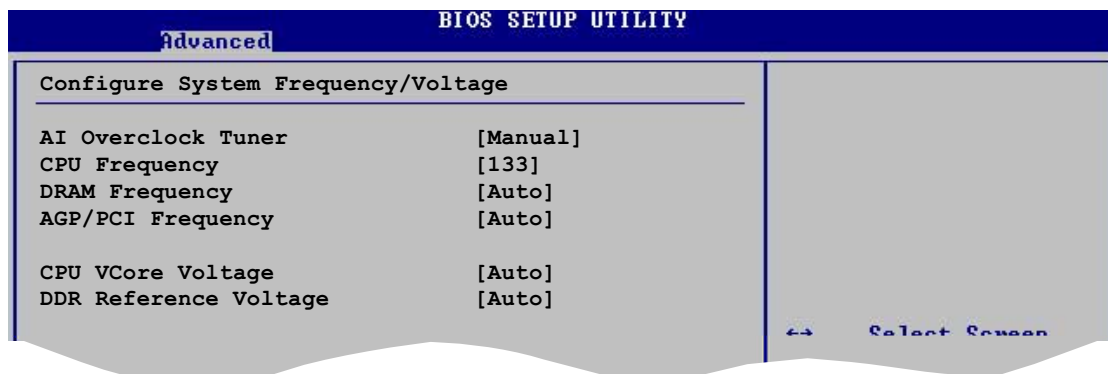
## CPU VCore Voltage [Auto]

CPU VCore 電圧を選択します。構成オプションは、取り付けられたCPUによって変わります。



CPU VCore 電圧を設定する前に、CPU 文書を参照してください。高いVcore 電圧を設定すると CPU が損傷することがあります。

AIオーバークロックチューナーアイテムを[Manual]に設定すると、関連するオーバークロックアイテムが表示されます。



## CPU Frequency (MHz) [XXX] (value is auto-detected)

クロックジェネレータにより、システムバスとPCIバスに送信された周波数を指示します。バス周波数（外部周波数）に複数のバスを掛けると、CPU速度になります。このアイテムの値はBIOSにより自動検出され、手動で構成することはできません。値は、100から400までです。<+> と<-> キーを使用してFSBを調整します。

Table 2.4.1 FSB/CPU 外部同期周波数

正面バス	CPU 外部周波数
FSB 800	200 MHz
FSB 533	133 MHz
FSB 400	100 MHz

## DRAM Frequency [Auto]

取り付けられたCPUに従って、DDR動作周波数を設定できます。DDR操作周波数を設定できます。構成オプション: FSB 400 CPU: [266 MHz] [Auto], FSB 533 CPU: [333 MHz] [266 MHz] [Auto], FSB 800 CPU: [400 MHz] [320 MHz] [266 MHz] [Auto]

## AGP/PCI Frequency (MHz) [Auto]

高いAGP/PCI周波数に調整すると、システムパフォーマンスとオーバークロック機能を高めることができます。構成オプション: [Auto] [66.66/33.33] [72.73/36.36] [80.00/40.00]



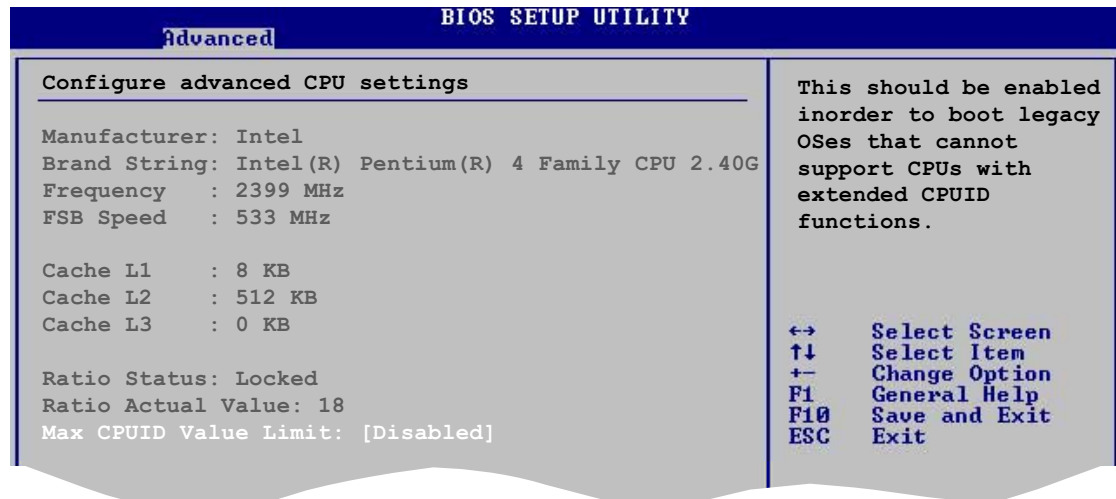
きわめて高いAGP/PCI周波数を選択すると、システムが不安定になります! この場合、デフォルト設定に戻してください。

## DDR Reference Voltage [Auto]

DDR SDRAM 操作電圧を選択できるようになります。構成オプション: [Auto]  
[2.658V] [2.551V]

## 2.4.2 CPU 構成

このメニューのアイテムは、BIOSによって自動検出されたCPU関連情報を表示します。



アンロックされたCPUを使用している場合、アイテムCPU比率が表示されません。使用可能なオプションから、希望する比率を選択することができます。

## CPU Ratio [12]

CPUコアクロックとフロントサイドバス(FSB)周波数の間で比率を設定します。



使用可能な比率がCMOSで設定されている場合、実際の値と設定値は異なることがあります。

## Max CPUID Value Limit [Disabled]

このアイテムは、CPU IDの最大値の制限に対して、古いOSのサポートの有効/無効を切り替えます。

## Hyper-Threading Technology [Enabled]

このアイテムによって、プロセッサの有効/無効を切り替えることができます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]



アイテムハイパースレディングテクノロジーは、この機能をサポートするIntel Pentium 4 CPUを取付けている場合のみ表示されます。詳細は、1-7ページをご覧ください。

## 2.4.3 チップセット

チップセットメニューは、拡張チップセット設定を変更します。アイテムを選択し、<Enter> を押してサブメニューを表示します。

BIOS SETUP UTILITY	
Advanced	
Advanced Chipset Settings	
Warning: Setting wrong values in below sections may cause system to malfunction.	
Configure DRAM Timing by SPD	[Enabled]
Memory Acceleration Mode	[Auto]
DRAM Idle Timer	[Auto]
DRAM Refresh Rate	[Auto]
Graphic Adapter Priority	[AGP/PCI]
Graphics Aperture Size	[ 64MB]
Spread Spectrum	[Enabled]
ICH Delayed Transaction	[Enabled]
MPS Revision 1.1/1.4	[1.4]
Set DRAM timing parameters according to DRAM SPD or manually.	
↔	Select Screen
↑↓	Select Item
+ -	Change Option
F1	General Help
F10	Save and Exit
ESC	Exit
vMM.mm <C>Copyright 1985-2002, American Megatrends, Inc.	

### Configure DRAM Timing by SPD [Enabled]

このアイテムが有効になっていると、DRAM タイミングパラメータは DRAM SPD (シリアルプレゼンス検出)に従って設定されます。無効になっていると、DRAM サブアイテムを通して DRAM タイミングパラメータを手動で設定できます。次のサブアイテムは、このアイテムが無効になっているときに表示されます。  
構成オプション: [Disabled] [Enabled]



次のサブアイテムは、アイテムSPDによりDRAMタイミングを構成が無効に設定されているときのみ表示されます。

#### DRAM CAS# Latency [2.5 Clocks]

SDRAM 読み取りコマンドとデータを実際に使用できるようになる時間の間の待ち時間を制御します。

構成オプション: [2.0 Clocks] [2.5 Clocks] [3.0 Clocks]

#### DRAM RAS# Precharge [4 Clocks]

プリチャージを DDR SDRAM に発した後アイドルクロックを制御します。

構成オプション: [4 Clocks] [3 Clocks] [2 Clocks]

#### DRAM RAS# to CAS# Delay [4 Clocks]

DDR SDRAM アクティブコマンドと読取/書出コマンド間の待ち時間を制御します。

構成オプション: [4 Clocks] [3 Clocks] [2 Clocks]

### DRAM Precharge Delay [8 Clocks]

構成オプション: [8 Clocks] [7 Clocks] [6 Clocks] [5 Clocks]

### DRAM Burst Length [8 Clocks]

構成オプション: [4 Clocks] [8 Clocks]

### Memory Acceleration Mode [Auto]

[Enabled]がCPUからメモリへの待ち時間を最小化するとき、このフィールドはシステム性能を上げます。構成オプション: [Auto] [Enabled]

### DRAM Idle Timer [Auto]

DRAMアイドルタイマを設定します。

構成オプション: [Infinite] [0T] [8T] [16T] [64T] [Auto]

### DRAM Refresh Mode [Auto]

構成オプション: [Auto] [15.6 uSec] [7.8 uSec] [64 uSec] [64T]



---

上のアイテムのどれかの設定を変更した後システムが不安定になったら、デフォルトの設定に戻してください。

---

### Graphic Adapter Priority [AGP/PCI]

1次ブートデバイスを使用するための、グラフィックスコントローラを選択できません。構成オプション: [AGP/PCI] [PCI/AGP]

### Graphics Aperture Size [64MB]

AGPグラフィックデータ用にマップされたメモリのサイズを選択できます。構成オプション: [4MB] [8MB] [16MB] [32MB] [64MB] [128MB] [256MB]

### Spread Spectrum [Enabled]

このフィールドは、クロックジェネレータのスペクトラム拡散の有効/無効を切り替えます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

### ICH Delayed Transaction [Enabled]

構成オプション: [Disabled] [Enabled]

### MPS Revision 1.1/1.4 [1.4]

多重プロセッサ仕様(MPS)バージョンを設定します。

構成オプション: [1.1] [1.4]

## 2.4.4 オンボードデバイス構成

BIOS SETUP UTILITY		
Advanced		
Onboard AC'97 Audio	[Auto]	[Enter] to select
Onboard LAN	[Enabled]	
Onboard LAN Boot ROM	[Disabled]	
Serial Port1 Address	[3F8/IRQ4]	
Parallel Port Address	[Disabled]	
Parallel Port Mode	[Normal]	
Parallel Port IRQ	[IRQ7]	
OnBoard Game/MIDI Port	[Disabled]	

### OnBoard AC'97 Audio [Auto]

[Auto]によって、BIOSはオーディオデバイスが使用されているかどうかを検出できます。オーディオデバイスが検出されれば、オンボードオーディオコントローラは有効になり、オーディオデバイスが検出されなければ、コントローラは無効になります。構成オプション: [Disabled] [Auto]

### OnBoard LAN [Enabled]

オンボードLANコントローラの有効/無効の切り替えが可能です。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

#### OnBoard LAN Boot ROM [Disabled]

オンボードLANコントローラで、オプションROMの有効/無効の切り替えが可能です。このアイテムは、オンボードLANアイテムが有効に設定されている場合のみ表示されます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

### Serial Port1 Address [3F8/IRQ4]

シリアルPort1ベースアドレスを選択できます。構成オプション: [Disabled] [3F8/IRQ4] [2F8/IRQ3] [3E8/IRQ4] [2E8/IRQ3]

### Serial Port2 Address [2F8/IRQ3]

シリアルPort2ベースアドレスを選択できます。構成オプション: [Disabled] [3F8/IRQ4] [2F8/IRQ3] [3E8/IRQ4] [2E8/IRQ3]

### Parallel Port Address [378]

パラレルポートベースアドレスを選択できます。構成オプション: [Disabled] [378] [278] [3BC]

### Parallel Port Mode [EPP+ECP]

パラレルポートモードを選択します。このアイテムは、Parallel Port Addressアドレスが無効に設定されていないときのみ表示されます。構成オプション: [Normal] [Bi-directional] [EPP] [ECP]

#### EPP Version [1.9]

パラレルポートEPPバージョンを選択できます。このアイテムは、パラレルポートモードがEPPに設定されている場合のみ、表示されます。構成オプション: [1.9] [1.7]



ECP Mode DMA Channel [DMA3]

このアイテムは、パラレルポート ECP DMA を設定します。パラレルポートモードが [ECP] に設定されているときのみ表示されます。  
構成オプション: [DMA0] [DMA1] [DMA3]

#### Parallel Port IRQ [IRQ7]

構成オプション: [IRQ5] [IRQ7]

### OnBoard Game/MIDI Port [Disabled]

ゲームポートアドレスを選択したり、ポートを無効にします。

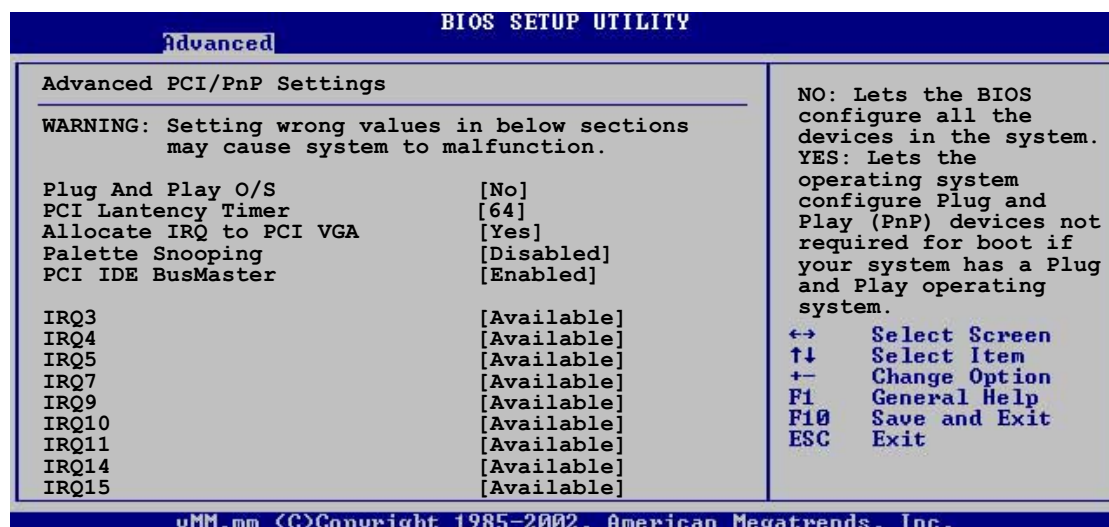
構成オプション: [Disabled] [200/300] [200/330] [208/300] [208/330]

## 2.4.5 PCI PnP

PCI PnP メニューアイテムは PCI/PnP デバイスのアドレスを変更します。メニューには、PCI/PnP またはレガシー ISA デバイス用 IRQ と DMA チャンネルリソースの設定、およびレガシー ISA デバイス用メモリサイズブロックの設定が含まれます。



PCI PnP メニューアイテムの設定を変更するときは注意してください。間違ったフィールド値はシステムが誤動作する原因となります。



### Plug and Play O/S [No]

[No]に設定されているとき、BIOS はシステムのすべてのデバイスを構成します。  
[Yes]に設定しているとき、プラグアンドプレイオペレーティングシステムをインストールしていれば、オペレーティングシステムは起動で必要とされないプラグアンドプレイデバイスを修正します。

構成オプション: [No] [Yes]

## PCI Latency Timer [64]

PCI デバイスのレイテンシータイマーレジスタ用 PCI クロックの装置の値を選択します。

構成オプション: [32] [64] [96] [128] [160] [192] [224] [248]

## Allocate IRQ to PCI VGA [Yes]

[Yes]に設定しているとき、カードが IRQ を要求すると IRQ を PCI VGA カードに割り当てます。[No]に設定しているとき、BIOSはたとえ要求されても IRQ を PCI VGAに割り当てません。構成オプション: [No] [Yes]

## Palette Snooping [Disabled]

[Enabled]に設定しているとき、パレットスヌープ機能は PCI デバイスに、ISAグラフィックスデバイスがシステムに取り付けられており、ISA グラフィックスデバイスが正常に作動していることを通知します。[Disabled]に設定されていると、この機能は使用できません。

構成オプション: [Disabled] [Enabled]

## PCI IDE BusMaster [Enabled]

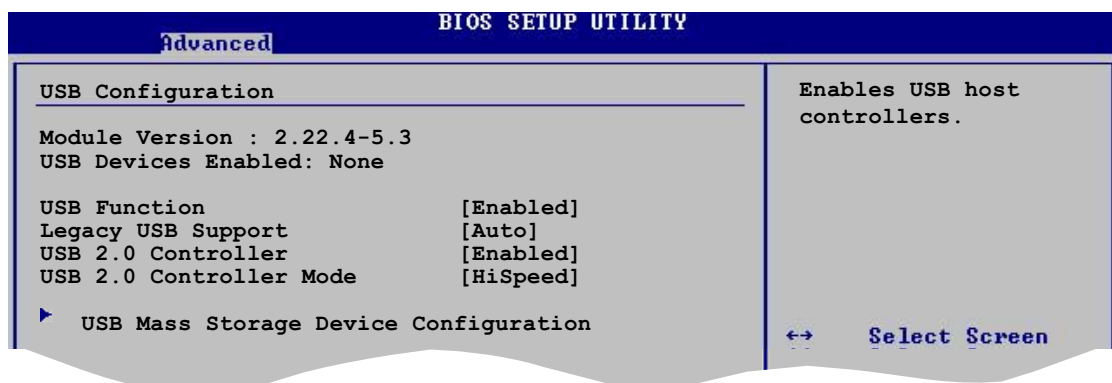
IDE デバイスと読み取り/書き出しを行っているとき、PCI バスマスタリングを使用します。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

## IRQ xx [Available]

[Available]に設定しているとき、特定の IRQはPCI/PnP デバイスを自由に使用します。[Reserved]に設定しているとき、IRQ はレガシー ISA デバイス用に予約されます。構成オプション: [Available] [Reserved]

## 2.4.6 USB構成

このメニューのアイテムは、USB 関連機能を変更します。アイテムを選択し、<Enter> を押して構成オプションを表示します。



モジュールバージョンと有効にされたUSBデバイスアイテムは、自動検出された値を表示します。USB デバイスが検出されなければ、アイテムはなしを示します。

## USB Function [Enabled]

USB 機能の有効/無効を切り替えます。

構成オプション: [Disabled] [Enabled]

## Legacy USB Support [Auto]

レガシー USB デバイスのサポートの有効/無効を切り替えます。Autoに設定すると、システムは起動時に USB デバイスの存在を検出します。検出されると、USB コントローラレガシーモードが有効になります。USB デバイスが検出されないと、レガシー USB サポートは無効になります。

構成オプション: [Disabled] [Enabled] [Auto]

## USB 2.0 Controller [Enabled]

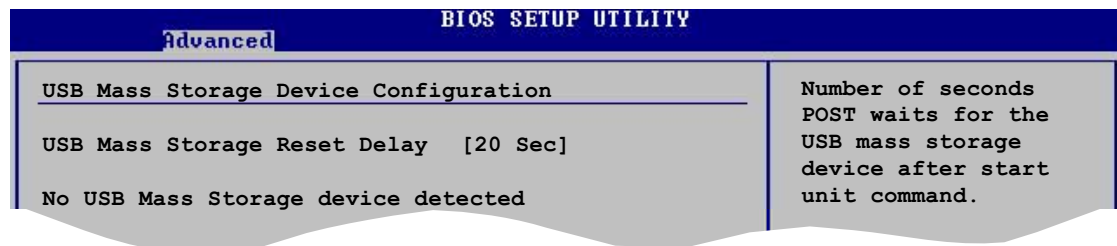
USB 2.0 コントローラの有効/無効を切り替えます。

構成オプション: [Disabled] [Enabled]

## USB 2.0 Controller Mode [HiSpeed]

HiSpeed (480 Mbps) または FullSpeed (12 Mbps)で、USB 2.0コントローラを設定します。構成オプション: [HiSpeed] [Full Speed]

## USB大容量記憶装置構成

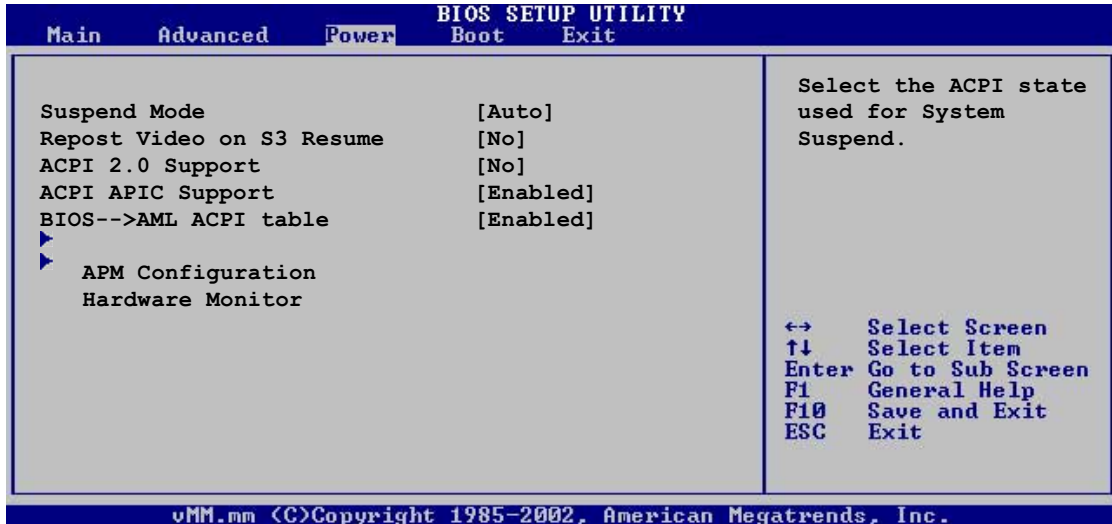


### USB Mass Storage Reset Delay [20 Sec]

スタートユニットコマンドの後、USB大容量記憶装置に対するPOST待機の秒数を選択できます。システムに何もインストールされていなければ、「USB大容量記憶装置が検出されませんでした」というメッセージが表示されます。構成オプション: [10 Sec] [20 Sec] [30 Sec] [40 Sec]

## 2.5 電源メニュー

電源メニューアイテムは、拡張構成と電源インターフェース (ACPI) および拡張電源管理 (APM) の設定を変更します。アイテムを選択し、<Enter> を押すと構成オプションが表示されます。



### 2.5.1 Suspend Mode [Auto]

システムサスペンド用に使用される拡張構成電源インターフェース (ACPI) 状態を選択します。

構成オプション: [S1 (POS) Only] [S3 Only] [Auto]

### 2.5.2 Repost Video on S3 Resume [No]

S3/STRレジューム時に VGA BIOS POST を呼び起こすかどうか決定します。

構成オプション: [No] [Yes]

### 2.5.3 ACPI 2.0 Support [No]

拡張構成電源インターフェース (ACPI) 2.0 仕様向けに詳細な表を追加します。

構成オプション: [No] [Yes]

### 2.5.4 ACPI APIC Support [Enabled]

アプリケーション固有の集積回路 (ASIC) で拡張構成電源インターフェース (ACPI) サポートの有効/無効を切り替えます。Enabled に設定されているとき、ACPI APIC 表ポインタは RSDT ポインタリストに含まれています。

構成オプション: [Disabled] [Enabled]

### 2.5.5 BIOS -> AML ACPI Table [Enabled]

BIOS -> AML 変換ポインタの (X) RSDT ポインタ一覧への組み込みの有効/無効を切り替えることができます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]



OSをインストールした後、APICサポート設定を変更しないでください。変更すると、システム起動エラーが発生します。

## 2.5.6 APM 構成

BIOS SETUP UTILITY		
Power		
Power Management/APM	[Enabled]	Enable or disable APM.
Video Power Down Mode	[Disabled]	
Hard Disk Power Down Mode	[Disabled]	
Suspend Time Out	[Disabled]	
Throttle Slow Clock Ratio	[50%]	
Power Button Mode	[On/Off]	
Restore on AC Power Loss	[Power Off]	
Power On By RTC Alarm	[Disabled]	↔ Select Screen
Power On By External Modems	[Disabled]	↑↓ Select Item
Power On By PCI Devices	[Disabled]	+− Change Option
Power On By PS/2 Keyboard	[Disabled]	F1 General Help
Power On By PS/2 Mouse	[Disabled]	F10 Save and Exit
		ESC Exit

©MM.mm (C)Copyright 1985-2002, American Megatrends, Inc.

### Power Management/APM [Enabled]

アドバンストパワーマネージメント(APM)機能の有効/無効を切り替えることができます。構成オプション: [Disbaled] [Enabled]

### Video Power Down Mode [Suspend]

ビデオのパワーダウンモードを選択できます。構成オプション: [Disabled] [Standby] [Suspend]

### Hard Disk Power Down Mode [Suspend]

ハードディスクのパワーダウンモードを選択できます。構成オプション: [Disabled] [Standby] [Suspend]

### Suspend Time Out [Disabled]

システムがサスペンドに入る指定時間を選択できます。構成オプション: [Disabled] [1-2 Min] [2-3 Min] [4-5 Min] [8-9 Min] [10 Min] [20 Min] [30 Min] [40 Min] [50 Min] [60 Min]

### Throttle Slow Clock Ratio [50%]

スロットルモードでデューティサイクルを選択できます。構成オプション: [87.5%] [75.0%] [62.5%] [50%] [37.5%] [25%] [12.5%]

### Power Button Mode [On/Off]

電源ボタンを押したとき、システムはオン/オフモードにまたはサスペンドモードに入ることができます。構成オプション: [On/Off] [Suspend]

## Restore on AC Power Loss [Power Off]

電源オフに設定しているとき、システムは AC 電力損失後オフ状態に入ります。電源オンに設定しているとき、システムは AC 電力損失後もオンの状態で続きます。最後の状態に設定しているとき、システムは AC 電力損失前の状態に関わらず、オンまたはオフの状態に入ります。

構成オプション: [Power Off] [Power On] [Last State]

## Power On By RTC Alarm [Disabled]

ウェイクアップイベントを生成する RTC の有効/無効を切り替えます。このアイテムが Enabled に設定されているとき、アイテム RTC アラーム日、RTC アラーム時、RTC アラーム分、RTC アラーム秒がセット値と共に表示されます。

構成オプション: [Disabled] [Enabled]

## Power On By External Modems [Disabled]

コンピュータがソフトオフモードになっている間、外部モデムがコールを受信するとき、コンピュータの電源をオンにするための有効/無効を設定します。

構成オプション: [Disabled] [Enabled]



コンピュータとアプリケーションが完全に実行するまで、コンピュータはデータを送受信できません。従って、最初の試行では接続を行えません。コンピュータがオフになっている間に外部モデムをオフにしてから再びオンにすると、初期ストリングがシステム電源をオンにします。

## Power On By PCI Devices [Disabled]

[Enabled] に設定しているとき、このパラメータは PCI LAN またはモデムカードを通してシステムの電源をオンにします。この機能は、+5VSB リード線で少なくとも 1A を提供する ATX 電源装置を必要とします。

構成オプション: [Disabled] [Enabled]

## Power On By PS/2 Keyboard [Disabled]

キーボードの特定キーを使用してシステムの電源をオンにします。この機能は、+5VSB リード線で少なくとも 2A を提供する ATX 電源装置を必要とします。

構成オプション: [Disabled] [Space Bar] [Ctrl-ESC] [Powerkey]

## Power On By PS/2 Mouse [Disabled]

[Enabled] に設定されているとき、PS/2 マウスを使用してシステムの電源をオンにします。この機能は、+5VSB リード線で少なくとも 2A を提供する ATX 電源装置を必要とします。

構成オプション: [Disabled] [Enabled]

## 2.5.7 ハードウェアモニタ

BIOS SETUP UTILITY	
Power	
Hardware Monitor	CPU Temperature
CPU Temperature	[40.5°C/102.5°F]
MB Temperature	[33°C/91°F]
CPU Fan Speed	[3260RPM]
Chassis Fan Speed	[N/A]
VCORE Voltage	[ 1.504V]
3.3V Voltage	[ 3.360V]
5V Voltage	[ 5.160V]
12V Voltage	[11.328V]

←→ Select Screen  
↑↓ Select Item  
+- Change Option  
F1 General Help

CPU Temperature [xxxC/xxxF]

MB Temperature [xxxC/xxxF]

オンボードハードウェアモニタは、マザーボードと CPU 温度を自動的に検出して表示します。検出された温度を表示したくない場合、[Disabled] を選択してください。

CPU Fan Speed [xxxxRPM] or [N/A]

Chassis Fan Speed [xxxxRPM] or [N/A]

オンボードハードウェアモニタは、CPU、シャーシ、電源装置のファン速度を自動的に検出し、(RPM)回転数/分で表示します。ファンがマザーボードに接続されていない場合、フィールドは N/A を表示します。

VCORE Voltage, +3.3V Voltage, +5V Voltage, +12V Voltage

オンボードハードウェアモニタはオンボード電圧調節器を通して電圧を自動的に検出します。

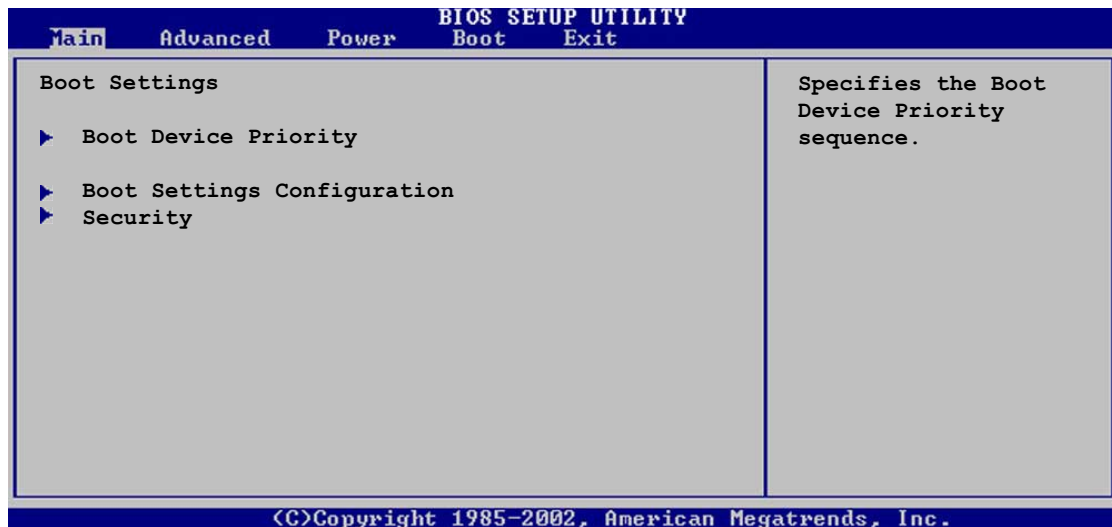


マザーボードアイテムのどれかが範囲から外れていると、次のエラーメッセージが表示されます: 「ハードウェアモニタがエラーを検出しました。」

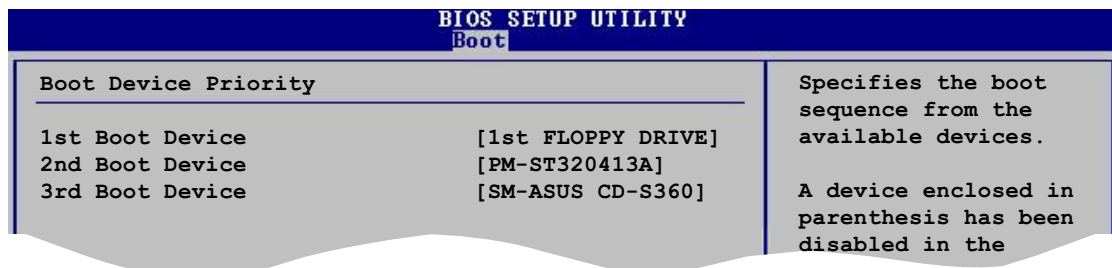
詳細は、電源セットアップメニューに入ってください。F1を押して続行するか、DELを押してセットアップに入ってください ( “Hardware Monitor found an error. Enter Power setup menu for details“. You will then be prompted to “Press F1 to continue or DEL to enter SETUP“ ) という指示メッセージが表示されます。

## 2.6 起動メニュー

起動メニューは、システム起動オプションを変更します。アイテムを選択し、<Enter> を押してサブメニューを表示します。



### 2.6.1 起動デバイスの優先順位

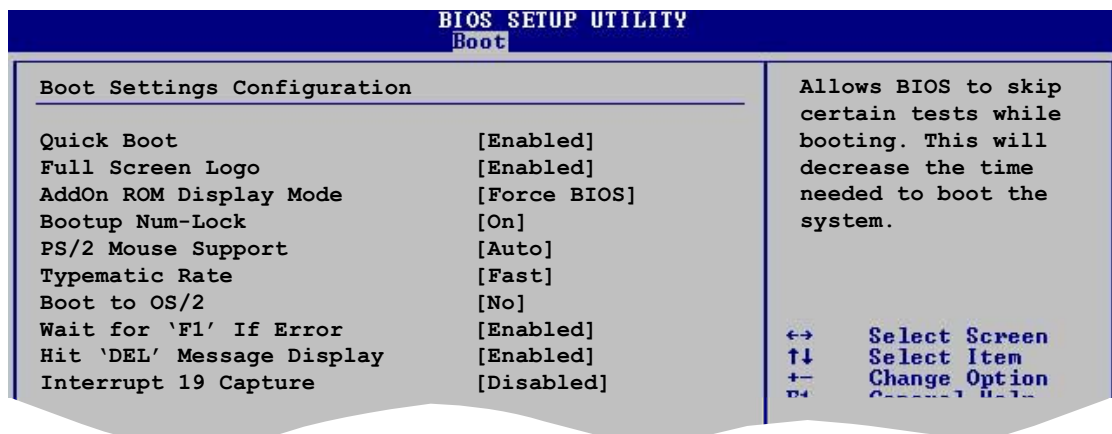


#### 1st ~ xxth Boot Device [1st Floppy Drive]

これらのアイテムは、使用できるデバイスから起動デバイスの優先順位を指定します。スクリーンに表示されるデバイスアイテムの数は、システムに取り付けたデバイスの数に依存します。

構成オプション: [xxxxx Drive] [Disabled]

### 2.6.2 起動設定構成





## Quick Boot [Enabled]

このアイテムを有効にすると、起動中にいくつかの自己診断テスト(POST)をスキップして、システムの起動に必要な時間を抑えます。[Disabled] に設定しているとき、BIOS はすべての POST アイテムを実行します。

構成オプション: [Disabled] [Enabled]

## Full Screen Logo [Enabled]

フルスクリーンロゴのディスプレイ機能の有効/無効を切り替えます。

構成オプション: [Disabled] [Enabled]



---

ASUS MyLogo2™ をお使いになる場合は、[Enabled] に設定してください。

---

## Add On ROM Display Mode [Force BIOS]

オプション ROM に対するディスプレイモードを設定します。

構成オプション: [Force BIOS] [Keep Current]

## Bootup Num-Lock [On]

NumLock の電源オン状態を選択します。

構成オプション: [Off] [On]

## PS/2 Mouse Support [Auto]

PS/2 マウスのサポートの有効/無効を切り替えます。

構成オプション: [Disabled] [Enabled] [Auto]

## Typematic Rate [Fast]

キーボードのタイプマティックレートを選択できます。

構成オプション: [Slow] [Fast]

## Boot to OS/2 [No]

OS/2 互換モードを指定できます。構成オプション: [No] [Yes]

## Wait for 'F1' If Error [Enabled]

有効に設定していると、システムはエラーが発生したときにF1が押されるのを待ちます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

## Hit 'DEL' Message Display [Enabled]

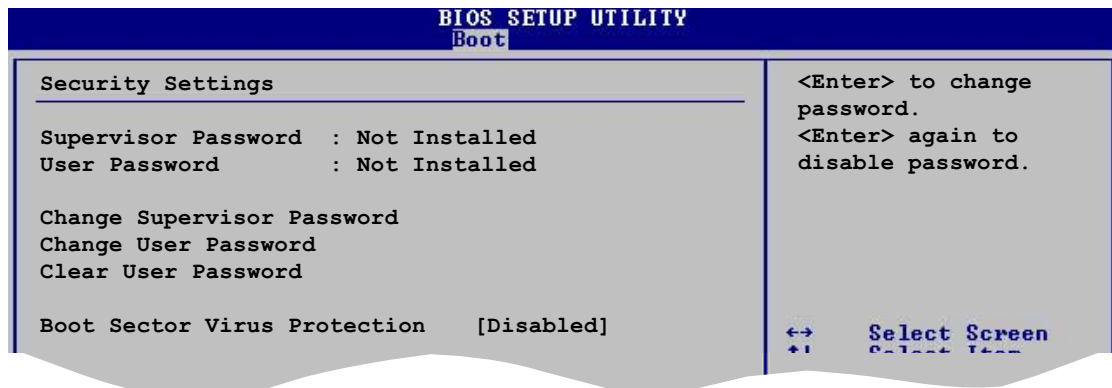
Enabled に設定していると、システムは POST 中に「DEL を押すと設定を実行します」というメッセージを表示します。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

## Interrupt 19 Capture [Disabled]

[Enabled] に設定されていると、この機能は Interrupt 19 をトラップすることができます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

## 2.6.3 セキュリティ

セキュリティメニューアイテムは、システムセキュリティ設定を変更します。アイテムを選択し、<Enter> を押すと構成オプションが表示されます。



### 管理者パスワードの変更

このアイテムを選択すると、管理者パスワードを設定または変更します。スクリーン上部の管理者パスワードアイテムは、デフォルトの未インストールを表示します。パスワードを設定した後、このアイテムはインストール済みを表示します。

管理者パスワードを設定するには、以下の手順に従います。

1. 管理者パスワードの変更アイテムを選択し、<Enter> を押します。
2. パスワードボックスから、6文字以下の英数字からなるパスワードを入力し、<Enter> を押します。
3. 求められたら、パスワードを確認します。  
パスワードを完全に設定すると、「パスワードがインストールされました」というメッセージが表示されます。

管理者パスワードアイテムは、インストール済みを表示します。

管理者パスワードを変更するには、ユーザーパスワードの設定と同じ手順に従います。

管理者パスワードを消去するには、管理者パスワードの変更を選択し、<Enter> を押します。「パスワードがインストールされていません」というメッセージが表示されます。



BIOS パスワードを忘れた場合、CMOS リアルタイムクロック(RTC) RAM を消去してパスワードをクリアすることができます。RTC RAM を消去する方法については、「1.9 ジャンパ」をご覧ください。

管理者パスワードを設定した後、他のアイテムが表示されて他のセキュリティ設定を変更できます。



### User Access Level [Full Access]

このアイテムは、設定アイテムへのアクセス制限を選択します。  
構成オプション: [No Access] [View Only] [Limited] [Full Access]

- アクセスなしは、設定ユーティリティへのアクセスを妨げます。
- 表示のみは、アクセスは許可しますがフィールドを変更することはできません。
- 制限は、日時など、選択されたフィールドのみを変更できます。
- フルアクセスは、設定ユーティリティのすべてのフィールドを表示し変更できます。

### ユーザーパスワードの変更

このアイテムを選択して、ユーザーパスワードを設定または変更します。スクリーン上部のユーザーパスワードアイテムは、デフォルトの未インストールを表示します。パスワードを設定した後、このアイテムはインストール済みを表示します。

ユーザーパスワードを設定するには、次の手順に従います。

1. ユーザーパスワードの変更アイテムを選択し、<Enter> を押します。
2. 表示されるパスワードボックスで、6文字以下の英数字からなるパスワードを入力し、<Enter> を押します。
3. 求められたら、パスワードを確認します。  
パスワードが正常に設定された後、「パスワードがインストールされました」というメッセージが表示されます。

管理者パスワードアイテムは、インストール済みを表示します。

ユーザーパスワードを変更するには、ユーザーパスワードの設定と同じステップに従います。

### Clear User Password

このアイテムを選択して、ユーザーパスワードをクリアします。

### Password Check [Setup]

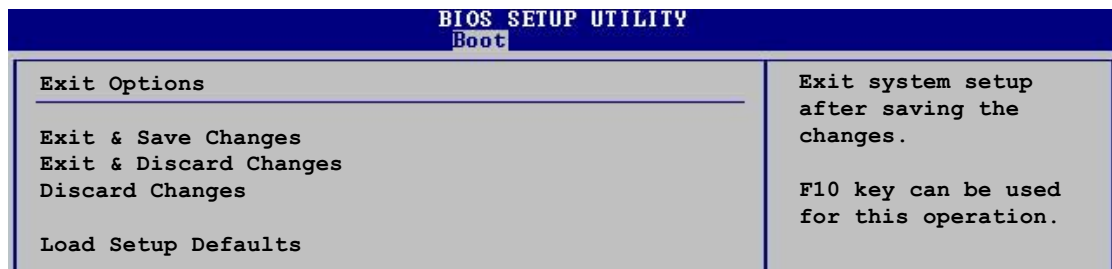
[Setup] に設定した後、BIOS は設定ユーティリティにアクセスしているときユーザーパスワードをチェックします。[Always] に設定されているとき、BIOS は設定にアクセスしたりシステムを起動しているとき、ユーザーパスワードをチェックします。構成オプション: [Setup] [Always]

## Boot Sector Virus Protection [Disabled]

起動セクタのウイルス保護の有効/無効を切り替えます。  
構成オプション: [Disabled] [Enabled]

## 2.7 終了メニュー

終了メニューは BIOS 設定の項目の変更の保存、破棄や最適値、もしくは安全設定のデフォルト値を読み込みを行います。



<Esc> を押してもこのメニューは直ちに終了しません。このメニューからどれか1つのオプションを、または凡例バーから <F10> を選択して終了します。

### Exit & Save Changes

選択を終了したら、終了メニューからこのオプションを選択して、選択した値が CMOS RAM に保存されていることを確認します。CMOS RAM はオンボードのバックアップバッテリーに保存され、PC の電源をオフにしても消えることはありません。このオプションを選択すると、確認ウィンドウが表示されます。[Yes] を選択すると、変更を保存して終了します。



変更を保存せずにセットアッププログラムを終了しようとする時、プログラムは終了する前に変更を保存するかどうか尋ねるメッセージを表示します。<Enter> を押すと、終了するときに変更を保存します。

### Exit & Discard Changes

このオプションは、設定プログラムに対して行った変更を保存したくないときのみ、選択してください。システムの日付、システム時間、パスワード以外のフィールドを変更した場合、セットアッププログラムは終了する前に確認を求めます。

### Discard Changes

行った変更を破棄し、以前保存した値を復元します。このオプションを選択した後、確認が表示されます。[Ok] を選択すると変更を破棄し、以前保存した値をロードします。

### Load Setup Defaults

設定メニューのそれぞれのパラメータに対して、デフォルト値をロードします。このオプションを選択、または <F5> を押すと、確認ウィンドウが表示されます。[Ok] を選択するとデフォルト値をロードします。

# 第3章

本章では、マザーボードパッケージに付属するサポートCDの内容を説明いたします。

## ソフトウェアのサポート

## 3.1 オペレーティングシステムをインストールする

このマザーボードはWindows® 98SE/ME/2000/XP/2003 Server オペレーティングシステム(OS)をサポートします。常に最新のOSバージョンと対応する更新をインストールし、ハードウェアの機能を最大限に使用してください。



マザーボード設定とハードウェアオプションは異なります。本章で説明したセットアップ手順は、参照の目的でのみ使用してください。詳細については、OSのマニュアルを参照してください。

## 3.2 サポートCD情報

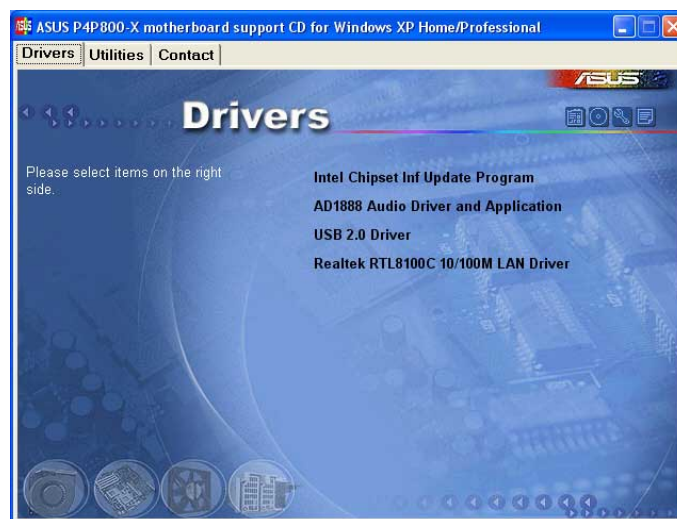
添付のサポートCDには、本マザーボードに必要なドライバ、ソフトウェア およびユーティリティが含まれています。OSのインストール後に、必ずインストールしてください。



サポートCDの内容は、将来予告なしに変更することがあります。更新版はASUS webサイト ([www.asus.com](http://www.asus.com))でお求めください。

### 3.2.1 サポートCDを実行する

サポートCDを使うには、CD-ROMドライブにCDを入れます。ドライバメニューが自動起動します。



Autorun がコンピュータで有効になっていない場合は、サポートCDの内容を検索しBINフォルダからASSETUP.EXEファイルを探してください。CDでASSETUP.EXEをダブルクリックします。

### 3.2.2 ドライバメニュー

マザーボードに搭載されているデバイス用のドライバです。各デバイスの機能を有効にするために必要です。

#### Intel® Chipset Inf Update program

Intel® Chipset Software Installation Utility をインストールします。これは、Intel チップセット用のプラグアンドプレイ情報(Plug-n-Play INF)です。チップセットの機能を Windows が使用できるようにするために必要な情報ファイルです。詳しくはユーティリティ内のオンラインヘルプを参照してください。

#### ADI AD1888 Audio Driver and Application

このアイテムは、ADI AD1888オーディオドライバとアプリケーションをインストールして、6チャンネルオーディオ機能をアクティブにします。

#### USB 2.0 Driver

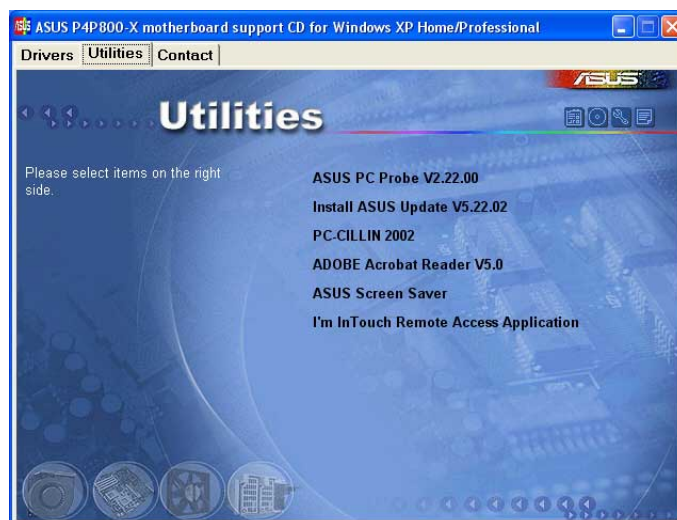
USB 2.0ドライバをインストールします。

#### REALTEK RTL8100C 10/100M LAN Driver

このアイテムはRealtek LANドライバをインストールして、10/100 Mbpsネットワークワーキングをサポートします。

### 3.2.3 ユーティリティメニュー

本マザーボードでサポートされているユーティリティに関するメニューです。



#### ASUS PC Probe

コンピュータのファン回転数・温度・電圧などのハードウェア情報をモニターすることができるユーティリティです。システムの監視に役立ちます。

## Install ASUS Update

Windowsの上からBIOSの更新保存をするツールで、あらかじめインターネットに接続されていれば、WEBサイトから自動でダウンロードすることもできます。



MyLogo™機能を使用するには、BIOS「クイック起動」アイテムを[有効]に設定します。2-29 ページの「2.6.3 起動設定構成」をご覧ください。

## Anti-virus application

アンチウイルスアプリケーションは、データを破壊するウイルスを検出し、コンピュータを保護します。

## Adobe Acrobat Reader

PDF形式のマニュアルを見るために必要な Adobe Acrobat Reader をインストールします。最新および他言語のマニュアルが、PDF形式でASUSのサイトにあります。

## ASUS Screen Saver

ASUS スクリーンセーバーをインストールします。

## I'm InTouch Remote Access Application

このアイテムは I'm InTouch リモートアクセスアプリケーションをインストールして、ユーザーがファイルにリモートでアクセスしたり、自宅や職場のPCから一部のハードウェアをコントロールできるようにしています。

### 3.2.4 連絡先情報

連絡先タブをクリックすると、ASUS連絡先情報が表示されます。ユーザーガイドの裏表紙にもこの情報は表示されています。

